

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧  
P.2-3

<22週> 咽頭結膜熱 - 定点当たり報告数は微増し、過去10年間と比較して本年16週以降最高の値で推移している / その他最新動向



注目すべき感染症  
P.4

<腸管出血性大腸菌感染症>  
患者報告での入力事項について



病原体情報  
P.5

患者から分離・検出された病原体報告 - Vero毒素産生性大腸菌 / 咽頭結膜熱患者から分離されているアデノウイルス



速報  
P.6-7

重症急性呼吸器症候群(SARS)の「可能性例」国別累積報告数 / アデノウイルス7型の分離状況 - 北九州市



海外感染症情報  
P.8-9

公衆衛生学的調査により、西半球で初めてのヒトのサル痘患者発生を確認 / 重症急性呼吸器症候群(SARS) - 更新情報



感染症の話  
P.10-13

<水痘>  
水痘帯状疱疹ウイルスによって起こる急性の伝染性疾患で、全身性の発疹が出現する



読者のコーナー  
P.14



グラフ総覧(22週)  
P.15-21



22週のデータ  
P.22-30



# 発生動向総覧

第22週コメント 6月5日集計分

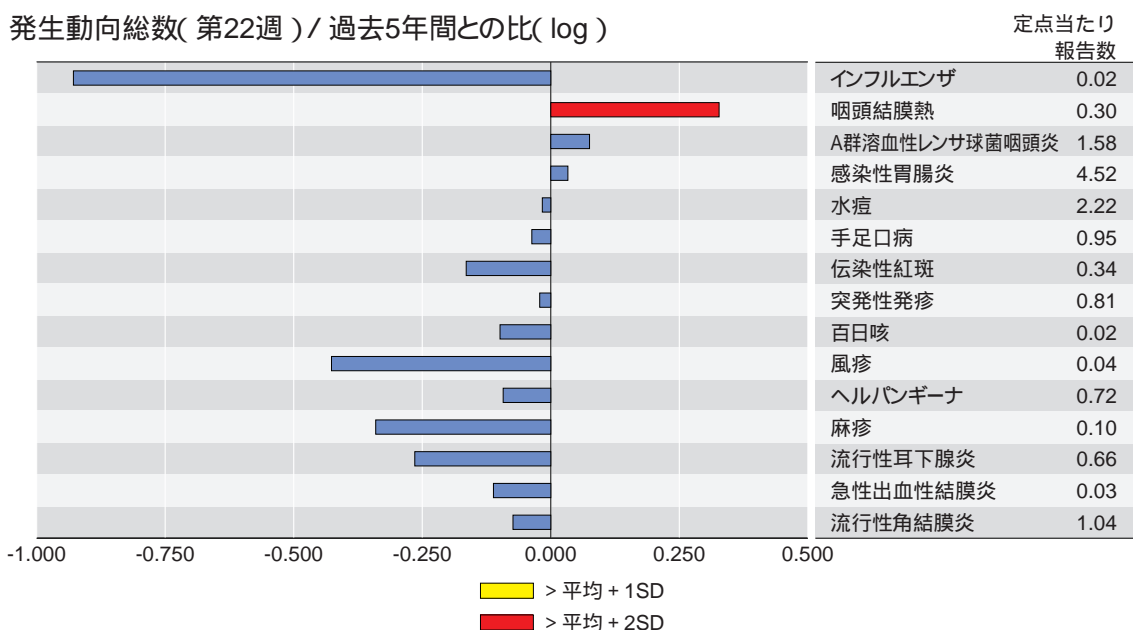
## 全数報告の感染症

- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: 細菌性赤痢5例( 推定感染地域: 国内2例、インド1例、インドネシア1例、ガーナ1例 ) 腸チフス1例  
( 推定感染地域: インド ) パラチフス1例( 推定感染地域: インド )
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症54例( うち有症者25例 ): 東京都( 老人福祉施設 )で集団発生
- 4類感染症: アメーバ赤痢5例( 推定感染地域: 国内2例、インドネシア1例、不明2例 )  
クロイツフェルト・ヤコブ病2例( ともに孤発性 ) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、  
ジアルジア症4例( 推定感染地域: 国内1例、ラオス1例、カンボジア1例、不明1例 )  
髄膜炎菌性髄膜炎1例( 22歳、血清型: Y型、推定感染地域: 国内 )  
ツツガムシ病12例( 秋田県から5例 ) 破傷風1例( 66歳 ) バンコマイシン耐性腸球菌感染症6例  
( いずれも無症状、菌検出検体: いずれも便、遺伝子型: VanA 5例、VanB 1例 ) レジオネラ症1例  
急性ウイルス性肝炎4例  
A型1例( 推定感染地域: 国内 )  
B型2例( 推定感染経路: 性的接触1例、不明1例 )  
C型1例( 推定感染経路: 不明 )
- 後天性免疫不全症候群11例( 無症候9例、その他2例 )  
推定感染経路: 性的接触10例( 異性間1例、同性間8例、異性間/同性間1例 ) 不明1例  
推定感染地域: 国内10例、不明1例
- 梅毒3例( 早期顕症1例、無症候性2例 )  
( 補 )他に、ライム病1例の報告があったが報告基準を満たさず削除予定

## 定点把握の対象となる4類感染症( 週報対象のもの )

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は微増し、過去5年間の同時期と比較してかなり多く、過去10年間と比較して本年16週以降最高の値で推移している。都道府県別では大分県( 2.3 )、福井県( 1.1 )、福岡県( 0.9 )が多い。マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は微減し0.22で、依然として過去4年間の同時期の平均と比較して約2倍となっている。都道府県別では青森県( 1.3 )、岡山県( 1.0 )、宮城県( 0.8 )、京都府( 0.8 )が多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は減少し、都道府県別では依然として富山県( 4.6 )、山形県( 3.4 )が多い。水痘の定点当たり報告数は増加し、都道府県別では新潟県( 4.5 )、長野県( 3.7 )、宮崎県( 3.5 )が多い。手足口病の定点当たり報告数は増加し、都道府県別では山口県( 4.5 )、宮崎県( 3.8 )、広島県( 3.1 )が多い。伝染性紅斑の定点当たり報告数は微増し、都道府県別では北海道( 1.0 )、群馬県( 0.9 )が多い。百日咳の定点当たり報告数は微増し、都道府県別では栃木県( 0.5 )、徳島県( 0.1 )が多い。風疹の定点当たり報告数は微増し、岡山県( 0.6 )、山口県( 0.2 )が多い。ヘルパンギーナの定点当たり報告数は増加し、都道府県別では鳥取県( 3.1 )、山口県( 2.9 )、福井県( 2.8 )が多い。麻疹( 成人麻疹を除く )の定点当たり報告数は微減し、都道府県別では依然として福島県( 0.8 )、栃木県( 0.5 )、鹿児島県( 0.4 )が多い。成人麻疹の定点当たり報告数は前週と同値で0.04で、都道府県別では神奈川県( 0.8 )、福島県( 0.4 )が多い。流行性角結膜炎の定点当たり報告数は微減し、都道府県別では香川県( 3.7 )、茨城県( 3.1 )が多い。無菌性髄膜炎の定点当たり報告数は微増し0.04で、都道府県別では和歌山県( 0.6 )、福井県( 0.3 )が多い。

発生動向総数( 第22週 ) / 過去5年間との比( log )

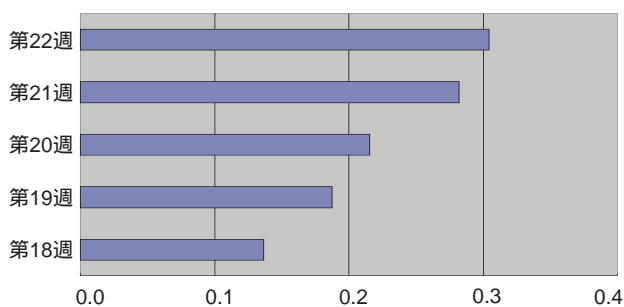


当該週と過去5年間の平均( 過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均 ) の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

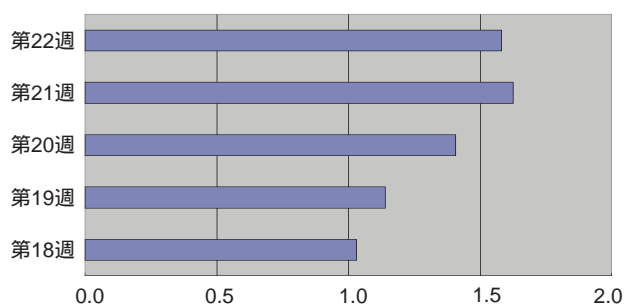
## 最近の注目疾患－5週間の動き

咽頭結膜熱、手足口病、伝染性紅斑、ヘルパンギーナの定点当たり報告数は前週に比べて増加している。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、流行性角結膜炎の定点当たり報告数は前週に比べて微減している。

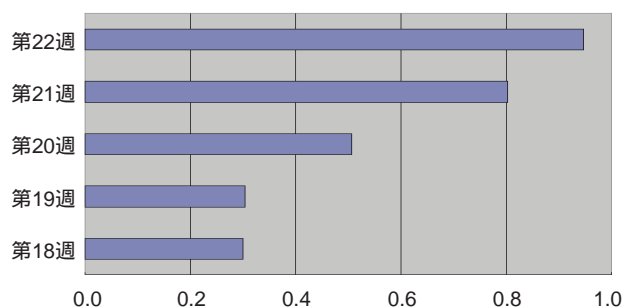
咽頭結膜熱



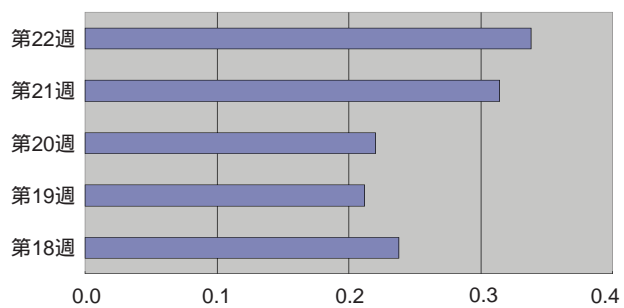
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



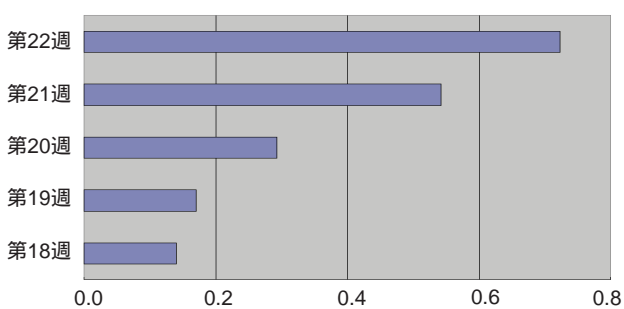
手足口病



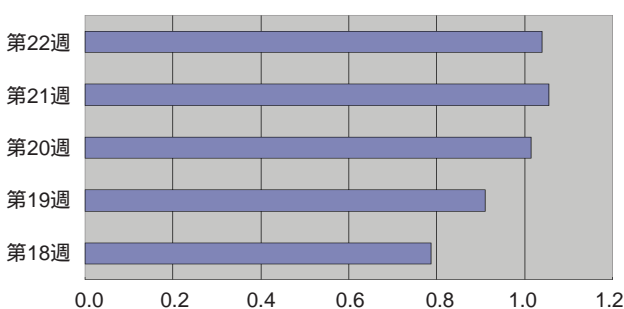
伝染性紅斑



ヘルパンギーナ



流行性角結膜炎



(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数( 報告総数/ 定点総数 )を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。



# 注目すべき感染症

## 腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症は1996年から届出伝染病に指定され、1999年4月からは感染症法に基づく3類感染症として位置付けられた。最近では、年間3,000～4,000例が報告されている。例年ピークは夏季にあり、今後、報告数が上昇していく可能性がある。今年に入って第21週では65例、第22週では54例( 累積335例 )の報告がある。例年に比べて特に多いと言うわけではないが、高齢者の施設、学校などで集団発生が報告されており、配食サービスと関係した事例もある。本格的な流行期を迎える前に感染防止策を徹底する必要がある。

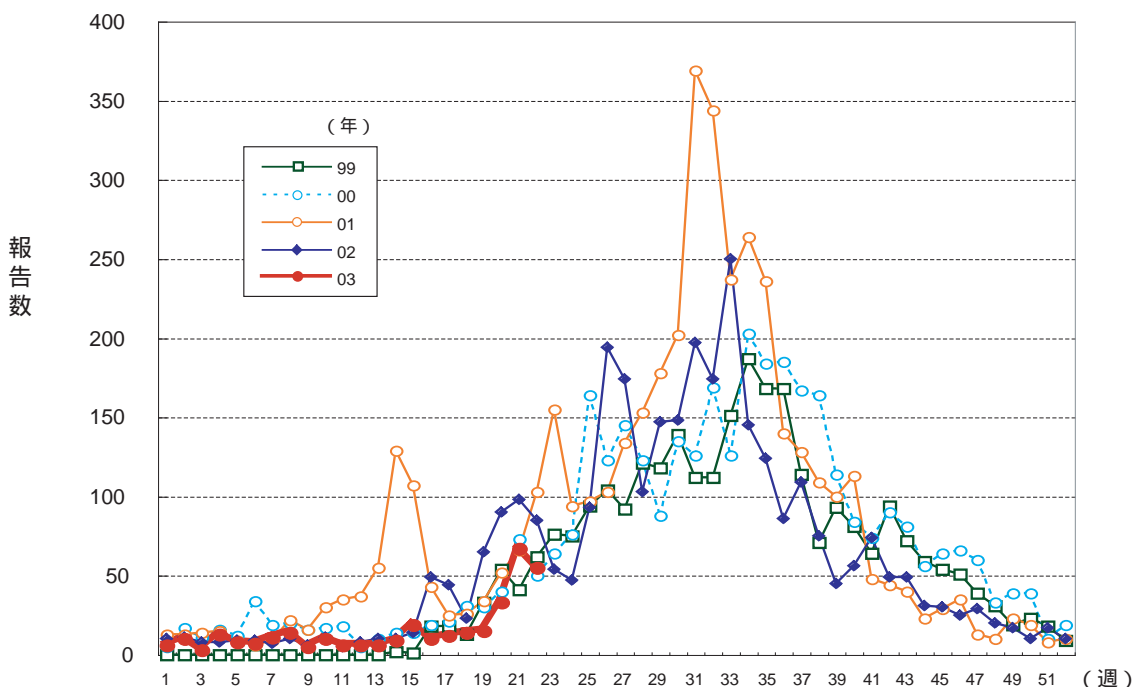
また、腸管出血性大腸菌の血清型やベロ毒素型の情報は、広域なアウトブレイクや重症化の要因解明の手がかりとなる可能性があるため、患者の報告にあたっては、これらの情報を下記の例に沿って入力して頂くことをお願いしたい。

腸管出血性大腸菌：病原体の血清型( O157など )及びベロ毒素型については、病原検査の「型」の欄に、例のようにすべて全角で、コンマを挟んだりスペースを空けたりせず、入力してください。

例 )O157VT1+VT2-

\* 報告時以降にHUSや死亡が確認された場合には、前者は「症状」に追加記入、後者は「死亡年月日」に記入して、訂正あるいは追加報告をお願いします。

図. 腸管出血性大腸菌感染症の週別報告数





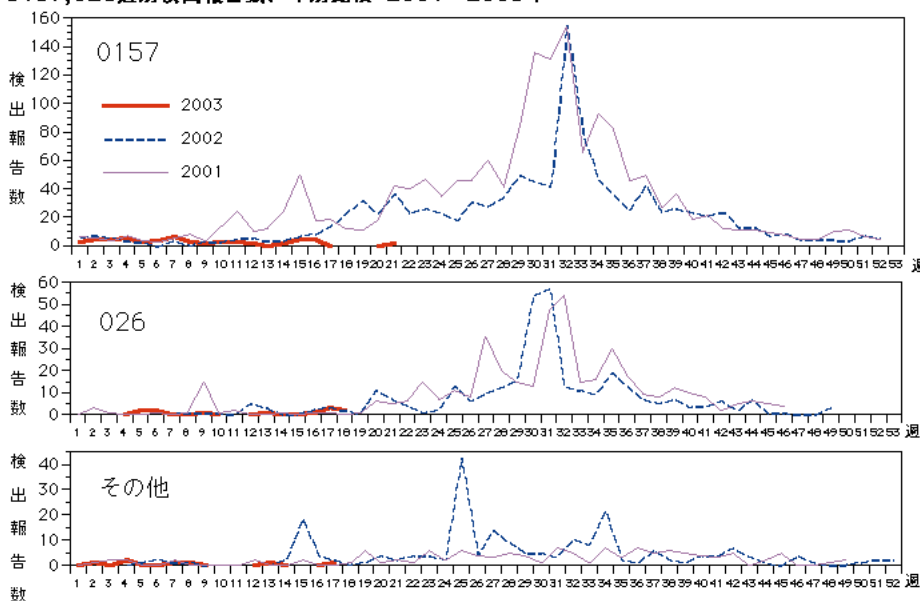
## 病原体情報

\*グラフはIASRホームページ( <http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html> )からの引用です。  
(2003年6月6日現在報告分)

### ヒトから検出されたVero毒素産生性大腸菌 2001～2003年

2002年の報告総数は1,601件で、2001年の2,230件より少く、血清型別ではO157が1,058件(1,672件)、O26が313件(425件)であった(カッコ内は2001年)。2002年には、O157が第17週頃より増加して第32週(155件)をピークとし、O26は第25週以降に増加して第31週(56件)をピークとし、以後それぞれ減少した。その他の血清型では、第15週に保育園でのO121集団発生、第25週に同じく保育園でのO111集団発生によるピークがみられた。2003年にはこれまでに63件報告されており、うちO157が44件、O26が12件、その他の血清型が7件である。いずれも散発事例、または家族内発生事例からの検出報告であり、集団発生事例からの検出報告はまだない。

**O157,O26週別検出報告数、年別比較 2001～2003年** (病原微生物検出情報: 2003年6月6日現在報告数)



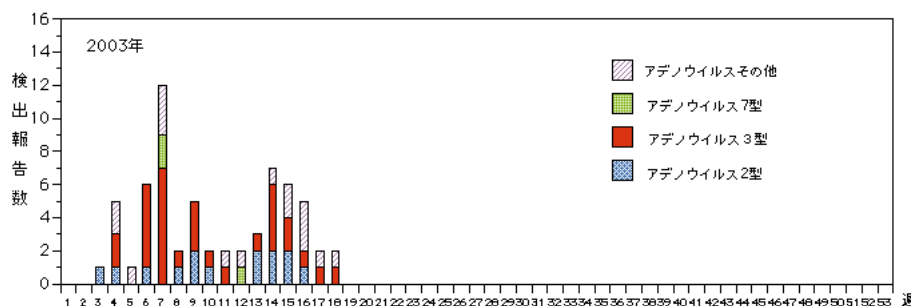
**IASR**  
Infectious Agents Surveillance Report

### 咽頭結膜熱患者から分離されているアデノウイルス 2003年

アデノウイルス3型(Ad3)が30件(三重県17、兵庫県4、広島市2など)、Ad2が14件(長野県4、広島市3、三重県2、兵庫県2など)、Ad1が8件(三重県3など)、Ad5が6件(三重県3など)、Ad7が3件(北九州市3; 本号速報記事参照)、Ad4が2件、Ad37が1件報告されている。

**週別咽頭結膜熱患者からのアデノウイルス分離報告数、2001年～2003年**

(病原微生物検出情報: 2003年6月6日現在報告数)



**IASR**  
Infectious Agents Surveillance Report



## 重症急性呼吸器症候群( SARS )の「可能性例」国別累積報告数

(平成14年11月1日<sup>1</sup>~平成15年6月12日)

国名	累積症例数 <sup>2</sup>	WHOによる前回の更新以降の新規症例数 <sup>2</sup>	死亡者数	回復者数 <sup>3</sup>	「可能性例」の最終報告日	現在の累積症例数報告日
オーストラリア	5	0	0	5	5月12日	6月5日
ブラジル	3	0	0	2	6月9日	6月9日
カナダ	238	8	32	141	6月11日	6月11日
中国	5328	0	343	4457	6月11日	6月12日
香港(中国特別行政区) <sup>4</sup>	1755	1	291	1377	6月11日	6月12日
マカオ(中国特別行政区)	1	0	0	1	5月21日	6月12日
台湾(中国)	688	2	81	347	6月12日	6月12日
コロンビア	1	0	0	1	5月5日	5月5日
フィンランド	1	0	0	1	5月7日	5月20日
フランス	7	0	0	6	5月9日	5月22日
ドイツ	10	0	0	9	6月4日	6月12日
インド	3	0	0	3	5月13日	5月14日
インドネシア	2	0	0	2	4月23日	6月11日
イタリア	9	0	0	9	4月29日	6月10日
クウェート	1	0	0	1	4月9日	4月20日
マレーシア	5	0	2	3	5月20日	6月9日
モンゴル	9	0	0	9	5月6日	6月2日
ニュージーランド	1	0	0	1	4月30日	6月12日
フィリピン <sup>5</sup>	14	2	2	10	5月15日	6月12日
アイルランド	1	0	0	1	3月21日	6月12日
韓国	3	0	0	3	5月14日	6月12日
ルーマニア	1	0	0	1	3月27日	4月22日
ロシア	1	0	0	0	5月31日	5月31日
シンガポール	206	0	31	169	5月18日	6月11日
南アフリカ	1	0	1	0	4月9日	5月3日
スペイン	1	0	0	1	4月2日	6月5日
スウェーデン	3	0	0	3	4月18日	5月13日
スイス	1	0	0	1	3月17日	5月16日
タイ	9	0	2	6	6月7日	6月11日
英国	4	0	0	4	4月29日	6月12日
米国	70	0	0	36	6月10日	6月11日
ベトナム	63	0	5	58	4月14日	6月7日
<b>計</b>	<b>8,445</b>	<b>13</b>	<b>790</b>	<b>6,668</b>		

[注]・累積症例数は死亡数を含む

・重症急性呼吸器症候群( SARS )は除外診断であるので、症例の報告状況は時々刻々と変わりうる。従って、以前に報告された症例でも、その後の調査と経過観察により削除される可能性がある。

- 1 現在はSARSと確認された中国の異型肺炎の症例を含むために、サーベイランス期間の開始日を2002年11月1日に変更した。
- 2 「累積症例数」の減少と、「前回と今回のWHOへの新規報告症例数」のあいだの矛盾は、( 同期間に別な病因が判明し )取り下げられた症例数があることによって生じている。
- 3 各国の公衆衛生当局が、「退院」あるいは「回復」したと報告した症例を含む。
- 4 香港における死亡例はベトナムから医療移送された1例を含む。
- 5 2003年2月25日、27日に発症したこれら2例の「可能性例」は過去に遡って英国にて特定された。これらは香港特別行政区で感染し、フィリピンで発症・回復した可能性が高い。

( WHOホームページより )



## アデノウイルス7型の分離状況 - 北九州市

北九州市において、アデノウイルス7型( AD7 )が2003年2月以降に17株分離されている( 6月3日現在 )。臨床診断名は咽頭結膜熱5例、インフルエンザ様疾患4例、ヘルパンギーナ2例、流行性角結膜炎2例、急性上気道炎1例、気管支炎1例、アデノウイルス感染症1例、川崎病1例であった。検査材料は、市内の小児科定点から搬入された咽頭ぬぐい液が13件、結膜ぬぐい液が2件、鼻汁が1件、うがい液が1件であった。年齢は1 ~ 12歳で、性別は男11名 : 女6名であった。

ウイルス分離は培養細胞( HEp-2、RD-18S、Vero )を使用し、すべての検体においてHEp-2で分離され、そのうち4例はVeroでも分離された。同定は、デンカ生研の中和抗血清を用いた中和反応により行った。

北九州市におけるAD7の分離は、2000年に0株、2001年が8株、2002年3株であった。AD7による感染は重症化する例もあるので、今後の動向に注意する必要がある。

北九州市環境科学研究所

鈴木崇子 村瀬浩太郎 高橋 勉

( IASR2003年7月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照 )



## 海外感染症情報

\* 関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ( <http://www.forth.go.jp/> )をご覧ください。

### 公衆衛生学的調査により、西半球で初めてのヒトのサル痘患者発生を確認

CDCプレスリリース 2003年6月7日

米国CDCの公衆衛生当局とウイスコンシン州、イリノイ州、インディアナ州は、サル痘様疾患のヒトへの感染を西半球で初めて報告した。これまでに19名の患者が報告され、ウイスコンシン州で17名、イリノイ州北部で1名、インディアナ州北部で1名発生した。発病した全ての患者は、病気のプレーリードッグとの直接または密接な接触があったことを報告した。

CDCは、医師、獣医師と一般市民に対し、プレーリードッグ、アフリカオニネズミ、他の動物への曝露による発疹患者を報告するように勧めている。CDCはまた、入院患者と接触する医療従事者に対し、空気感染と接触感染に対する標準防護手技による感染症防御の臨時勧告を発表した。病気の齧歯類や、ウサギ、プレーリードッグやアフリカオニネズミのような外国のペットの検査や治療を行う獣医師は、手袋、サージカルマスクまたはN95マスク、ガウンなどの個人防護機材を使用するよう勧告している。

このプレーリードッグは、ミルウォーキー州の動物卸商から5月に同州のペットショップ2件に販売され、ペット「交換会」期間中はウイスコンシン州北部にいた。このミルウォーキー州の動物卸商はイリノイ州北部の動物卸商から、複数のプレーリードッグと病気になっていた1匹のアフリカオニネズミを入手した。この動物の入手元と販売先を調査中である。予備的情報によると、この卸商の動物は数州で販売された可能性がある。

ヒトのサル痘は、主に中央アフリカと西アフリカの熱帯雨林の国々で発生する、まれなウイルス性の人獣共通感染症である。サル痘の病原体はオルソポックス科に属する。ヒトでの症状は、天然痘に類似する発疹性の疾患であるが、天然痘より感染性が低い。ヒトのサル痘は通常致死的ではない。潜伏期間は約12日である。サル痘に感受性のある動物は、ヒト以外の霊長類、ウサギ、一部の齧歯類などであると考えられている。

### 重症急性呼吸器症候群( SARS ) - 更新情報

WHO/CSR 2003年6月3日 - 更新72

中国

中国本土からの新たなSARS「可能性例」の1日当たり報告数は、5月の第1週の平均166例から、第2週には平均90例へ、第3週には27例、そして第4週には16例と、最近数週間で顕著に減少している。最近の6日間では、1日当たりの新たな症例の報告数は平均2.5例へと減少している。

WHOは、最近の経験とSARSに関する多くの不明な事項から、中国の新規症例報告数の下降傾向の解釈には注意が必要であるとみている。

「SARSは依然として中国に存在しており、WHOは引き続き中国をSARS発生の中心地とみなしている。中国当局と共に、この疾患が中国のように大きな国において永久に定着するのを防ぐのが、我々の仕事である」と、WHO感染症対策局長は述べている。

これからの数カ月間は間違いなく、世界的規模でSARSを封じ込めようという計画にとって重大な時期になるであろうと考えられるが、今や、それは中国でこの疾患の感染制御ができるかどうかにかかっている。感染が制御できない場合、穴だらけの長い国境と多くの移動人口を抱える中国に症例があることは、他の場所で集団発生の原因となる可能性があり、その結果、SARSは引き続き世界の他の国々への脅威となるであろう。



WHO/CSR 2003年6月5日 - 更新74

#### 香港

香港の各地区の保健当局は、最低1年間、現行の患者スクリーニング手法をすべての国境地点で継続する意向を表明した。

3月末に導入されたこの手法は、国境での赤外線体温測定スキャナーの導入や、すべての旅行者を対象とした健康状態の申告の義務づけなどを含む。これらの手法が導入されて以来、新たな輸入症例の発生はない。

香港はこのほかに、輸入症例のマスターリストを作成している。香港の全SARS症例のうち、6%が輸入例であったと現在は考えられている。香港は現在までに、1,748例の症例と284例の死亡例を報告しており、最多の中国本土に次いで2番目に深刻な影響を受けた地域となっている。

WHO/CSR 2003年6月9日 - 更新76

#### 中国、台湾、香港

中国は本日、新規SARS「可能性例」の報告はなかった。6月6日以後、中国はこの疾患の「可能性例」1名を報告した。

台湾では、台北郊外の病院から4名の新規「可能性例」を本日報告した。全例とも、患者との接触者として既に確認されており、隔離検疫されている。地方保健当局と共同して、WHO疫学専門家が病院での今回の患者発生の原因を調査している。

香港では1例の「可能性例」が発生した。5月16日に患者数が5人以下に減少して以来、25日経過した。また、SARSによる死亡者を1名報告した。



## 感染症の話

### 水痘

水痘( varicella )は、水痘帯状疱疹ウイルス( varicella-zoster virus ; VZV )によって起こる急性の伝染性疾患である。19世紀の終わりまでは、水痘と天然痘は明確に区別されていなかった。1875年Steinerによって、水痘患者の水疱内容を接種することによって水痘が発症することが示され、1888年von Bokayによって、水痘に感受性のある子どもが、帯状疱疹の患者との接触によって水痘が発症することが確認された。1954年にThomas Wellerによって、水痘患者および帯状疱疹患者いずれの水疱からもVZVが分離されることが確認された。その後の研究によって1970年代に日本で水痘ワクチンが開発され<sup>1)</sup>、現在水痘の予防に使用されている。

### 疫学

水痘ウイルスの自然宿主はヒトのみであるが、世界中に分布し、その伝染力は麻疹よりは弱い、ムンプスや風疹よりは強いとされ、家庭内接触での発症率は90%と報告されている。発疹出現の1~2日前から出現後4~5日、あるいは痂皮化するまで伝染力がある。1999年4月の感染症法施行後の感染症発生動向調査によると、約3,000の小児科定点医療機関から毎週1,300~9,500例の報告がある。季節的には毎年12~7月に多く、8~11月には減少しており、罹患年齢はほとんどが9歳以下である。

### 病原体<sup>2)</sup>

VZVはヘルペスウイルス科の 亜科に属するDNAウイルスであり、他のヘルペスウイルスと同様に初感染の後、潜伏感染する性質を有し、潜伏部位は知覚神経節である。ウイルスは通常気道粘膜から侵入し、鼻咽頭の侵入部位と所属リンパ節にて増殖した後、感染後4~6日で一次ウイルス血症を起こす。これによりウイルスは他の器官、肝、脾などに散布され、そこで増殖した後二次ウイルス血症を起こし、皮膚に水疱を形成する。ウイルスは発疹出現の5日前ころから1~2日後まで、末梢血単核球から分離される。

### 臨床症状<sup>2),3),4)</sup>

潜伏期は2週間程度( 10~21日 )であるが、免疫不全患者ではより長くなることがある。成人では発疹出現前に1~2日の発熱と全身倦怠感を伴うことがあるが、子どもでは通常発疹が初発症状である。発疹は全身性で掻痒を伴い、紅斑、丘疹を経て短時間で水疱となり、痂皮化する。通常は最初に頭皮、次いで体幹、四肢に出現するが、体幹にもっとも多くなる。数日にわたり新しい発疹が次々と出現するので、急性期には紅斑、丘疹、水疱、痂皮のそれぞれの段階の発疹が混在することが特徴である。またこれらの発疹は、鼻咽頭、気道、膾などの粘膜にも出現することがある。臨床経過は一般的に軽症で、倦怠感、掻痒感、38度前後の発熱が2~3日間続く程度であることが大半である。成人ではより重症になり、合併症の頻度も高い。通常呼吸器症状や胃腸症状を伴うことはない。初感染からの回復後は終生免疫を得て、その後に野生株に暴露された場合には、臨床症状を起こすことなく抗体価の上昇をみる。

合併症の危険性は年齢により異なり、健康な小児ではあまりみられないが、15歳以上と1歳以下では高くなる。1~14歳の子どもでの致死率は10万あたり約1例であるが、15~19歳では2.7例、30~49歳では25.2例と上昇する。合併症として、皮膚の二次性細菌感染、脱水、肺炎、中枢神経

合併症などがある。水痘に合併する肺炎は通常ウイルス性であるが、細菌性のこともある。中枢神経合併症としては、無菌性髄膜炎から脳炎まで種々ありうる。脳炎では小脳炎が多く、小脳失調をきたすことがあるが予後は良好である。より広範な脳炎は稀で、1万例に2.7程度であるが、成人に多く見られる。急性期にアスピリンを服用した小児では、ライ症候群が起こることがある。免疫機能が低下している場合の水痘では生命の危険を伴うことがあるので、十分な注意が必要である。

### 病原診断

通常は臨床的に診断がなされるが、確認のためには実験室診断が行われる。患者からのウイルス分離がもっとも直接的であり、通常水疱内容から行われることが多い。鼻咽頭から分離するのは難しい。水疱擦過物の塗沫(Tzanck smear)染色標本上で多核巨細胞を証明すれば診断に有用であるが、単純ヘルペスとの鑑別はできない。水痘帯状疱疹ウイルスは、モノクローナル抗体を用いた蛍光抗体法により確認できる。血清学的診断には種々の方法が用いられ、gpELISA法<sup>5)</sup>が有用であるが、日本では研究レベルで開発が始まったばかりであり、IAHA法、ELISA法が用いられているのが現状である。急性期と回復期でIgG抗体の有意な上昇を確認するか、IgM抗体を検出することにより診断がなされる。近年では、PCR法によりVZV DNAの検出が可能である。

また、VZVに対する細胞性免疫能を評価する方法として、水痘皮内抗原を用いた皮内テストがある。保険適応はないが、皮内テスト液は市販されている。0.1mlを皮内注射し、24時間～48時間後に発赤最大径が5mm以上の場合に、VZVに対する細胞性免疫が陽性であると判定される。これは、迅速に診断が求められる場合に有効な方法である。

### 治療・予防

通常、石炭酸亜鉛化リニメント(カルボルチンクリニメント;カチリ)などの外用が行われる。二次感染をおこした場合には抗菌薬の外用、全身投与が行われる。抗ウイルス剤としてアシクロビル(ACV)があり、重症水痘、および水痘の重症化が容易に予測される免疫不全者などでは第一選択薬剤となる。この場合、15mg/kg/日を1日3回に分けて静脈内投与するのが原則である。一方、免疫機能が正常と考えられる者の水痘についても、ACVの経口投与は症状を軽症化させるのに有効であると考えられており、その場合、発症48時間以内に50～80mg/kg/日を4～5日間投与するのが適当であるとされている。しかし、全ての水痘患者に対してルーチンに投与する必要はないと思われる。

本疾患はヒト-ヒト感染によるので、その予防は感染源のヒトとの接触をさけることが重要である。弱毒化生ワクチンが日本、韓国、米国などで認可されているが、日本では任意接種のワクチンの扱いである。1回の接種での抗体獲得率は約92%である。米国では、1歳以上で水痘の既往のない全ての小児に対してワクチン接種が推奨されている。副反応としては、軽度の局所の発赤、腫脹(小児では19%、成人では24%)が主なものである。水痘様発疹の出現は4～6%とされているが、発疹の個数は5個程度でほとんどは斑丘疹である。全身性の副反応は稀である。また従来、ゼラチンアレルギーのある小児などでは注意が必要であったが、各ワクチンメーカーの努力により、全ての生ワクチンからゼラチンが除去されるか、あるいはアレルギー反応を起こしにくい低分子ゼラチンの使用に変更された。これに伴い、水痘ワクチンからもゼラチンが除去され、現在日本で流通している水痘ワクチンはゼラチンを含まない製剤である。水痘ワクチンは、麻疹・風疹

などのワクチンと異なり、ワクチン接種によって抗体が獲得されても、水痘ウイルスに暴露した時に発症することが10～20%程度ありうる。ただし、この場合の水痘は極めて軽症で発疹の数も少なく、非典型的であることが殆どである。

2001年3月、米国で水痘ワクチン発売後約6年を経過した時点での接種成績がまとめられた<sup>6)</sup>。この報告によると、「水痘ワクチン接種は子供達の水痘を85%予防し、中等度から重症の水痘に関しては97%予防することが可能であった」と述べている。また、「接種後罹患した者においては、ワクチン接種6週間後のVZVに対する抗体価が低いことに関係しているようである」とも述べられている。

これら効果についての報告が発表されるとともに、分子生物学的手法の発展により、水痘ワクチン「Oka」親株(野生株)とワクチン株との違いもGomiら<sup>7)</sup>、Moffatら<sup>8)</sup>によって報告された。ワクチン株は野生株より皮膚における増殖が遅く、ウイルス血症が起こる前に免疫ができあがる。さらに、T細胞への感染性が減弱していること、などが報告されている。

水痘が流行している施設や家族内での予防については、患者との接触後できるだけ早く、少なくとも72時間以内に水痘ワクチンを緊急接種することにより、発症の防止、症状の軽症化が期待できる。浅野らの研究によると<sup>9)</sup>、家族内感染での発症予防に関し、予想発症日の1週間前からACVを予防内服(40mg/kg/日、7日間)することにより症状を抑え、かつ免疫反応を獲得することが報告されている。ただし、予想発症日から約2カ月後にVZV抗体の有無を確認しておく必要があり、獲得がみられなければ、その時点で水痘ワクチンを接種しておくことが望まれる。また最近では、高齢者に対する带状疱疹の予防として、水痘ワクチンを接種する試み<sup>10)</sup>、造血幹細胞移植患者への不活化水痘ワクチンの試みなども始まっており<sup>11)</sup>、今後の結果が期待される。

### 感染症法における取り扱い

水痘は4類感染症定点把握疾患であり、全国約3,000カ所の小児科定点医療機関から毎週報告がなされている。

報告のための基準は以下の通りである。

診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の2つの基準を満たすもの

1. 全身性の丘疹性水疱疹の突然の出現
2. 新旧種々の段階の発疹(丘疹、水疱、痂皮)が同時に混在すること

上記の基準は必ずしも満たさないが、診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、病原体診断や血清学的診断によって当該疾患と診断されたもの

### 学校保健法における取り扱い

水痘は第二種伝染病に属し、登校基準は以下の通りである。

すべての発疹が痂皮化するまで出席停止とする。ただし、病状により伝染のおそれがないと認められたときはこの限りではない。

## 【引用文献】

- 1) Takahashi M, et al. Development of a live attenuated varicella vaccine. *Biken J.* 1975;18(1):25-33.
- 2) Gershon AA, LaRussa P: Varicella-zoster virus infections. *Krugman's Infectious Diseases of Children*, 10th ed. 1998, pp620-649 Mosby-Year Book, Inc.
- 3) Gershon AA. Varicella-zoster virus. In: *Textbook of pediatric infectious diseases* (ed by Ralph D. Feigin, James D. Cherry, pp1769-1777, W.B. Saunders Company, USA, 1998.
- 4) 水痘・带状疱疹の臨床: In ヘルペスウイルス感染症 監修・編集 新村真人、山西弘一. 発行・臨床医薬研究協会. 1996; 187-239
- 5) Krah DL, et al. Comparison of gpELISA and neutralizing antibody responses to Oka/Merck live varicella vaccine (Varivax) in children and adults. *Vaccine.* 1997 Jan;15(1):61-4.
- 6) Vazquez M, et al. The effectiveness of the varicella vaccine in clinical practice. *N Engl J Med.* 2001;344(13):955-60.
- 7) Gomi Y, et al. Comparison of the complete DNA sequences of the Oka varicella vaccine and its parental virus. *J Virol.* 2002;76(22):11447-59.
- 8) Moffat JF, et al. Attenuation of the vaccine Oka strain of varicella-zoster virus and role of glycoprotein C in alphaherpesvirus virulence demonstrated in the SCID-hu mouse. *J Virol.* 1998;72(2):965-74.
- 9) Asano Y, et al. Prophylaxis or modification of varicella by oral acyclovir after household exposure. *Arch Dis Child.* 1994;70(5):451-2.
- 10) Takahashi M, et al. Immunization of the elderly and patients with collagen vascular diseases with live varicella vaccine and use of varicella skin antigen. *J Infect Dis.* 1992;166 Suppl 1:S58-62.
- 11) Hata A, et al. Use of an inactivated varicella vaccine in recipients of hematopoietic-cell transplants. *N Engl J Med.* 2002;347(1):26-34.

( 国立感染症研究所感染症情報センター 多屋馨子 )





## 読者のコーナー

「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。  
ご意見・ご質問は、題名(タイトル)の一番はじめにidwr-Q:をつけてこちらまでEメールでどうぞ。

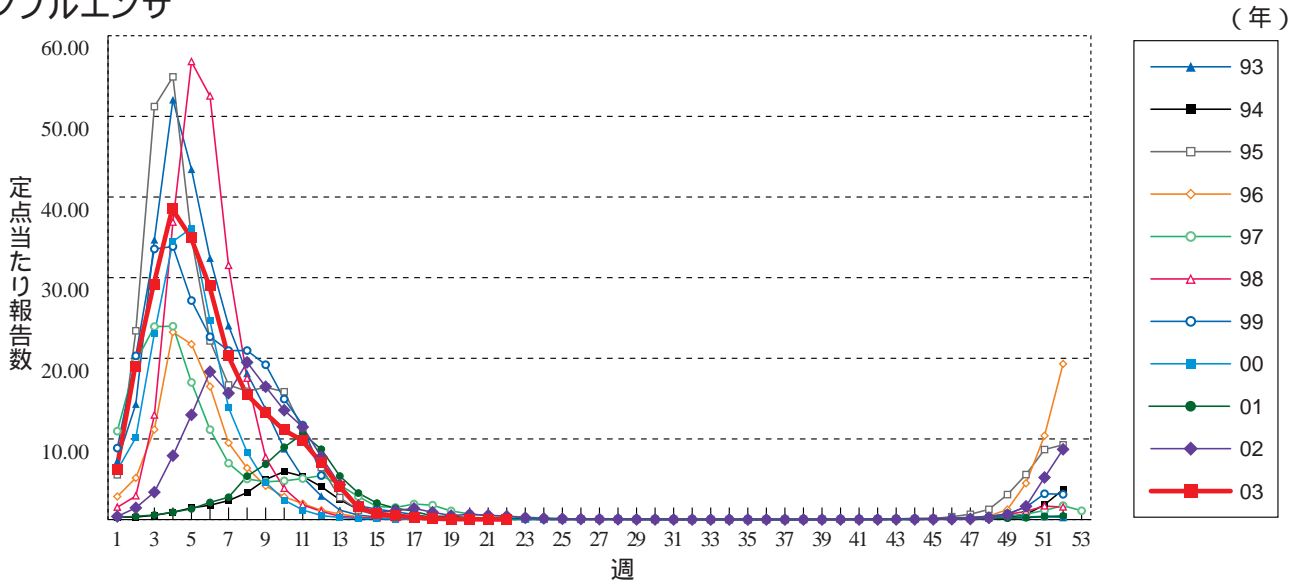
[idsq-query@nih.go.jp](mailto:idsq-query@nih.go.jp)



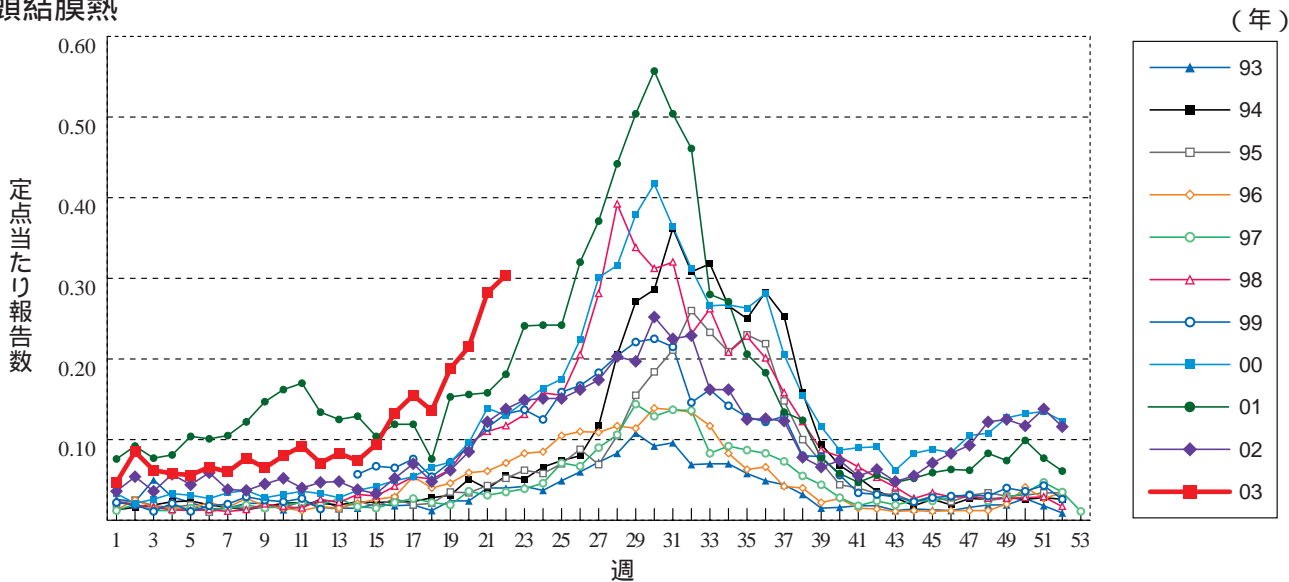


**グラフ総覧(22週)**

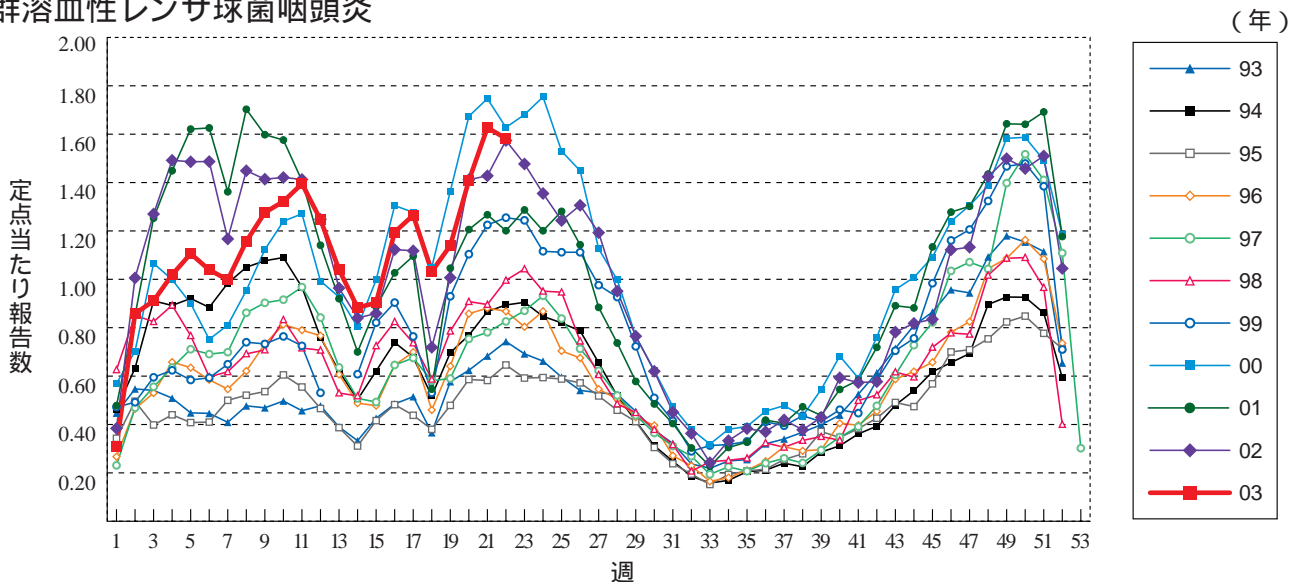
**インフルエンザ**



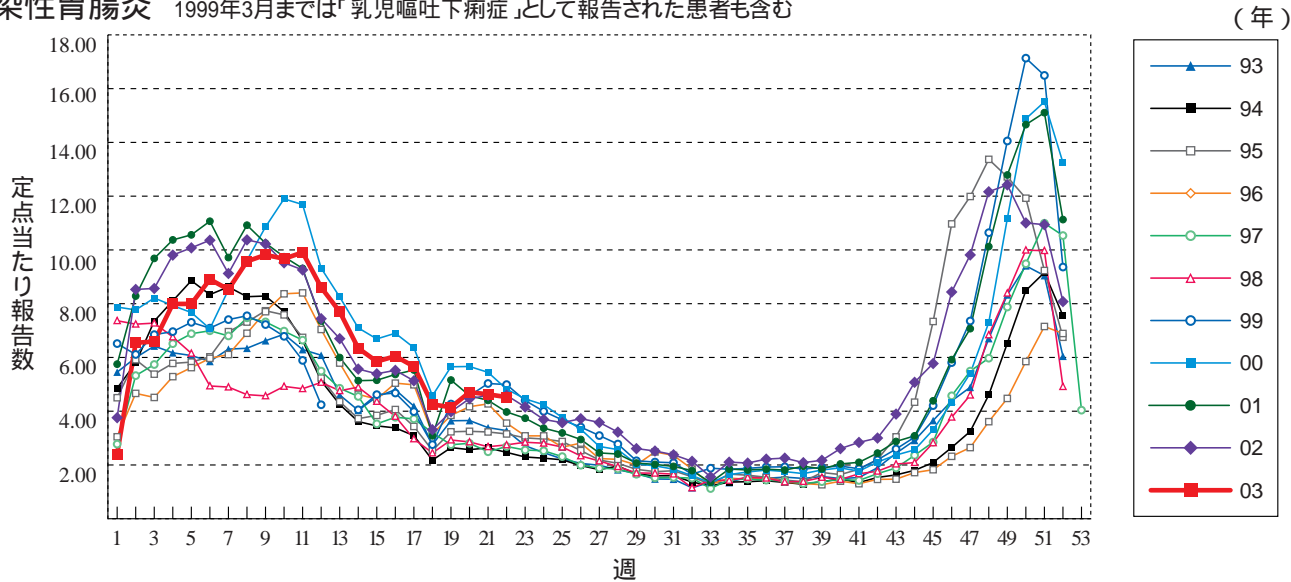
**咽頭結膜熱**



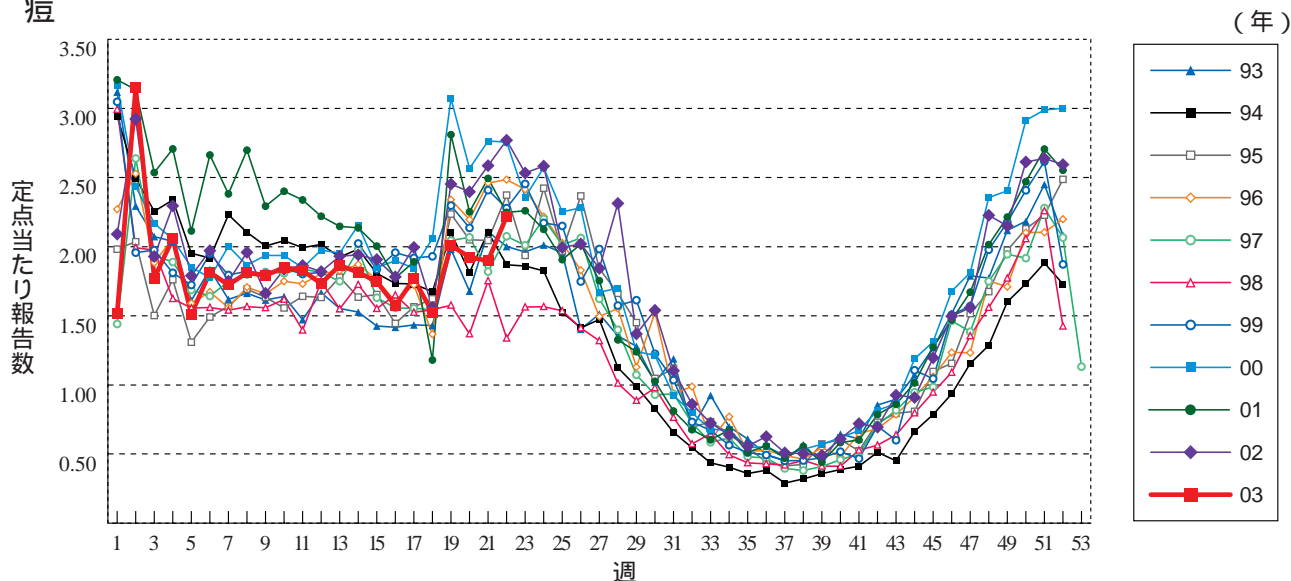
**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**



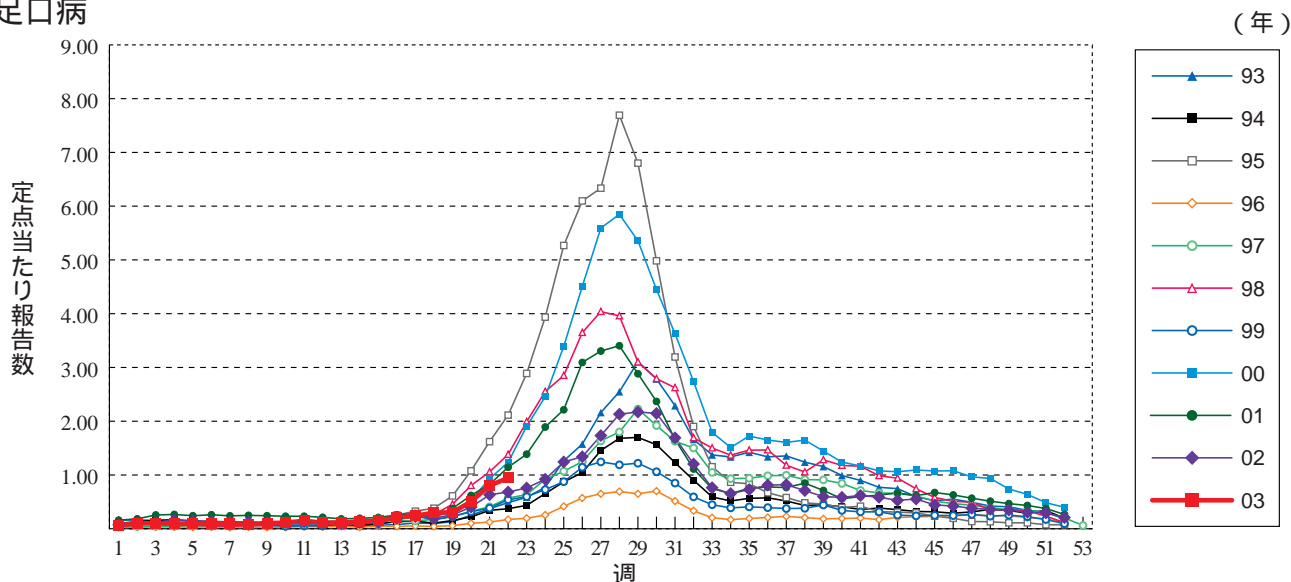
**感染性胃腸炎** 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



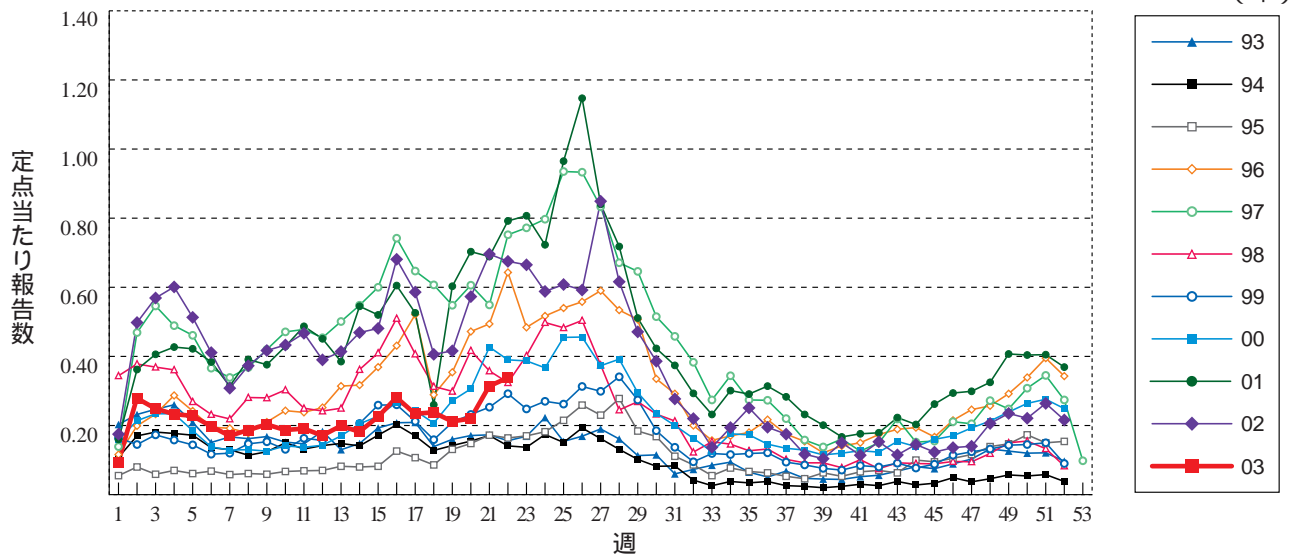
**水痘**



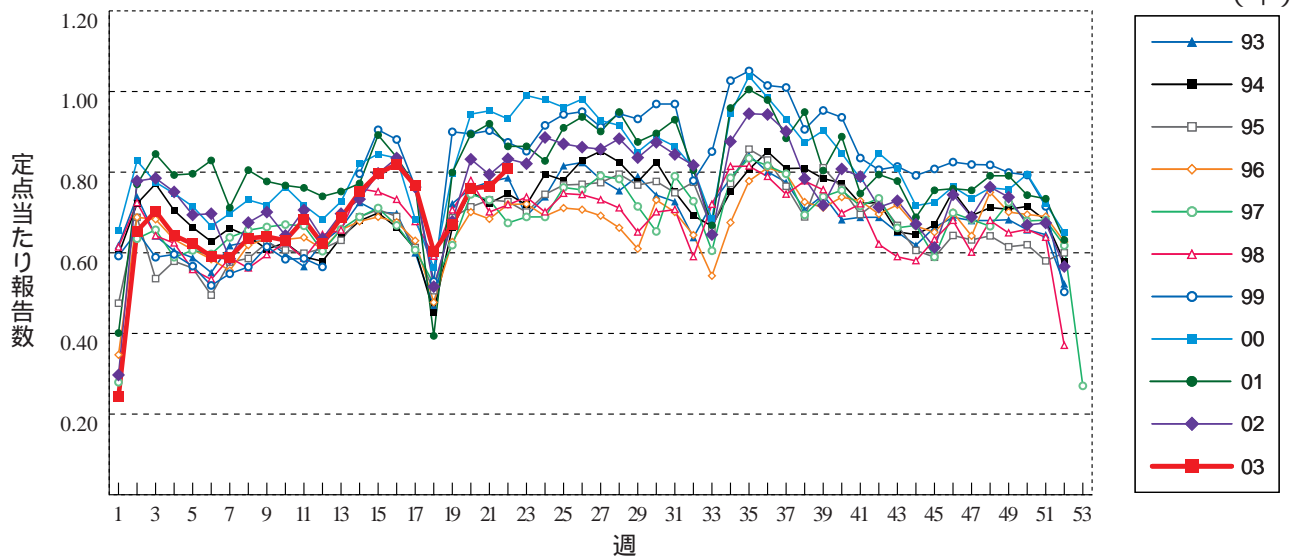
**手足口病**



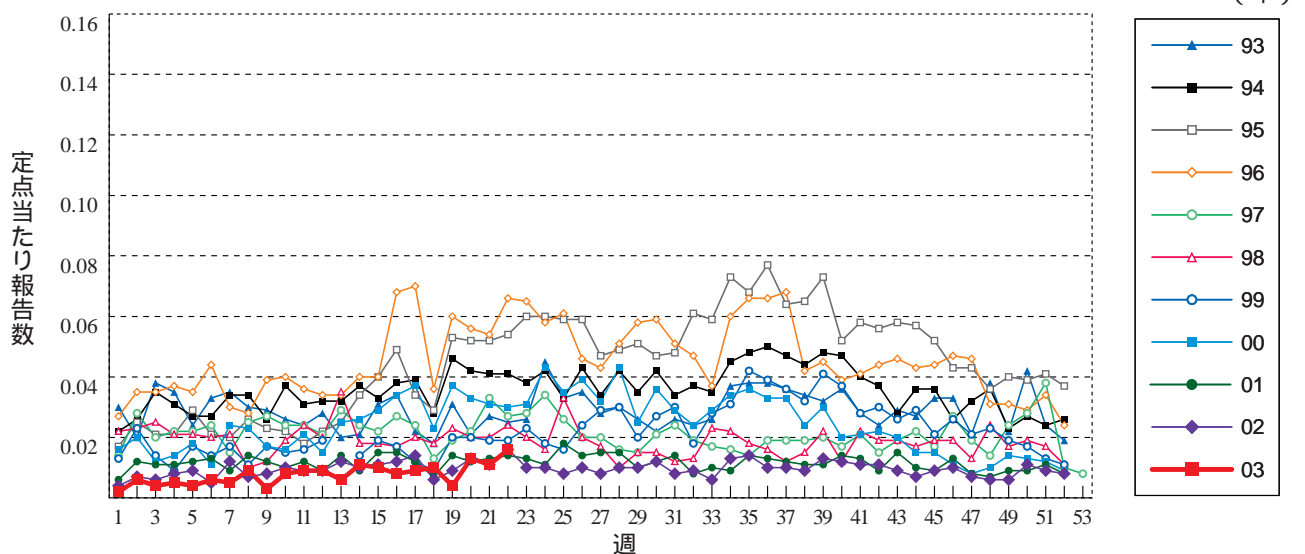
伝染性紅斑



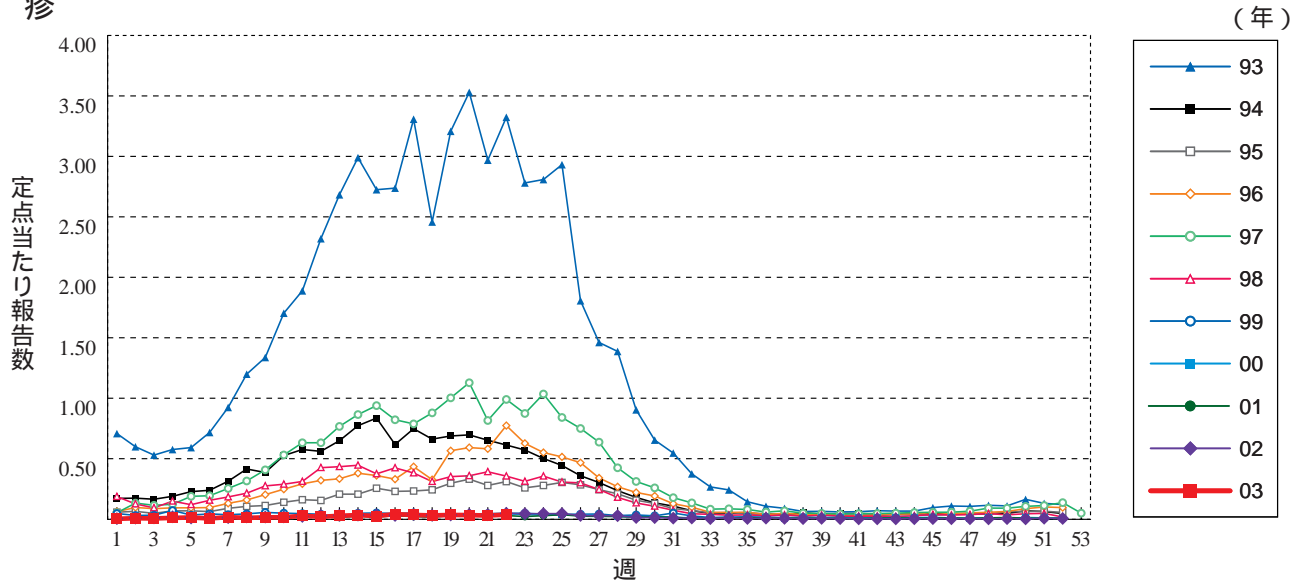
突発性発疹



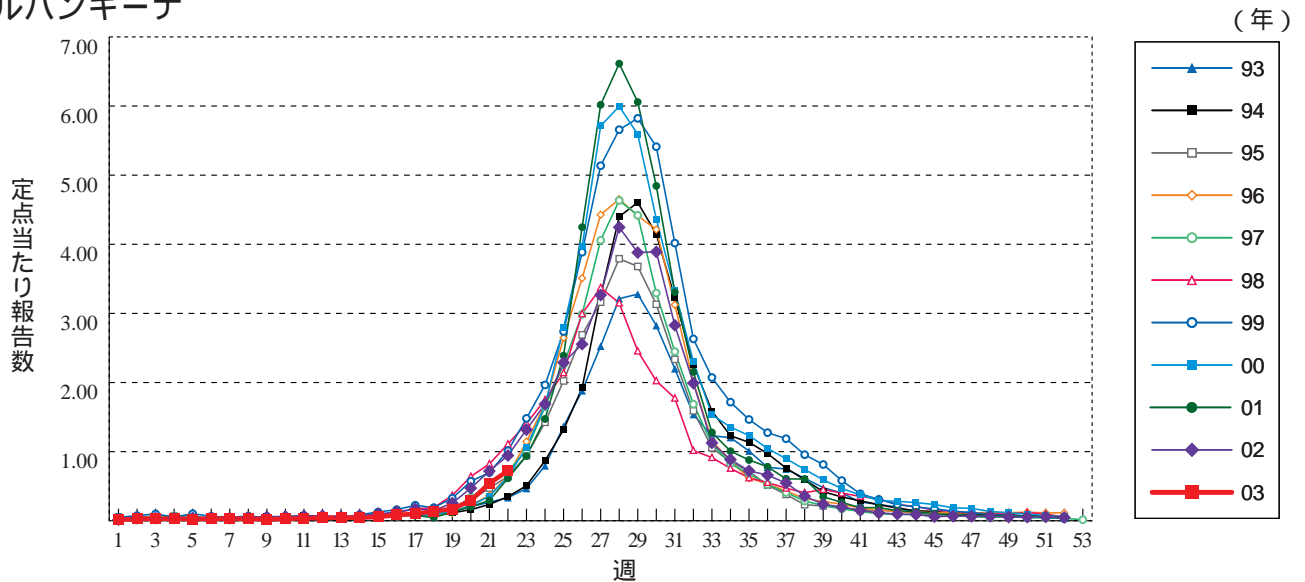
百日咳



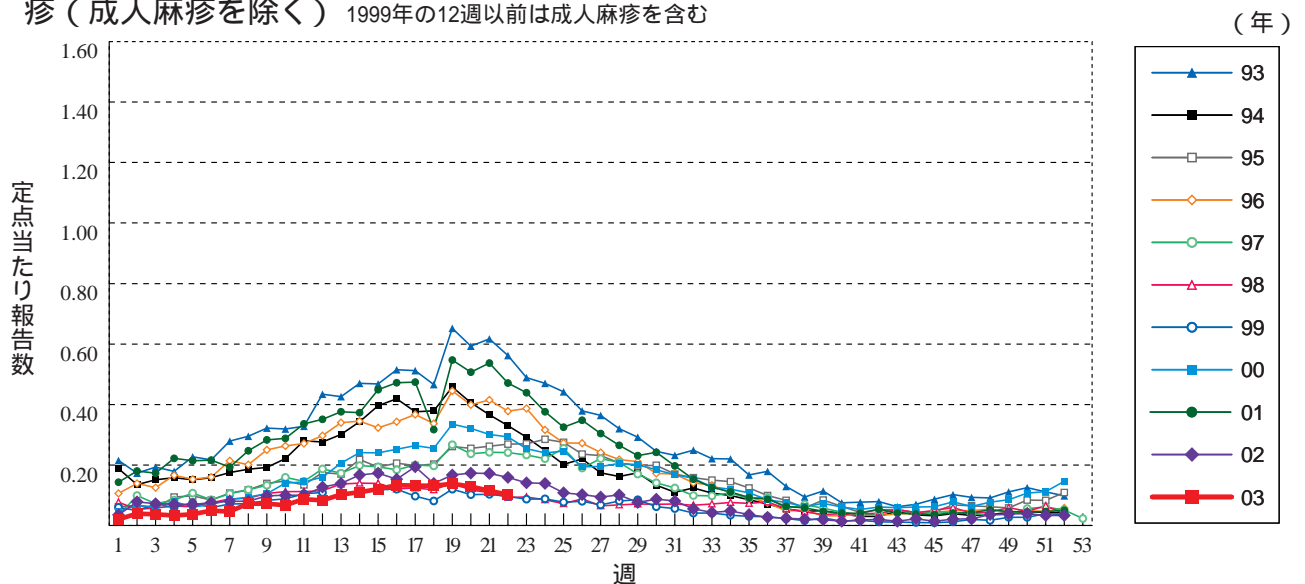
風 疹



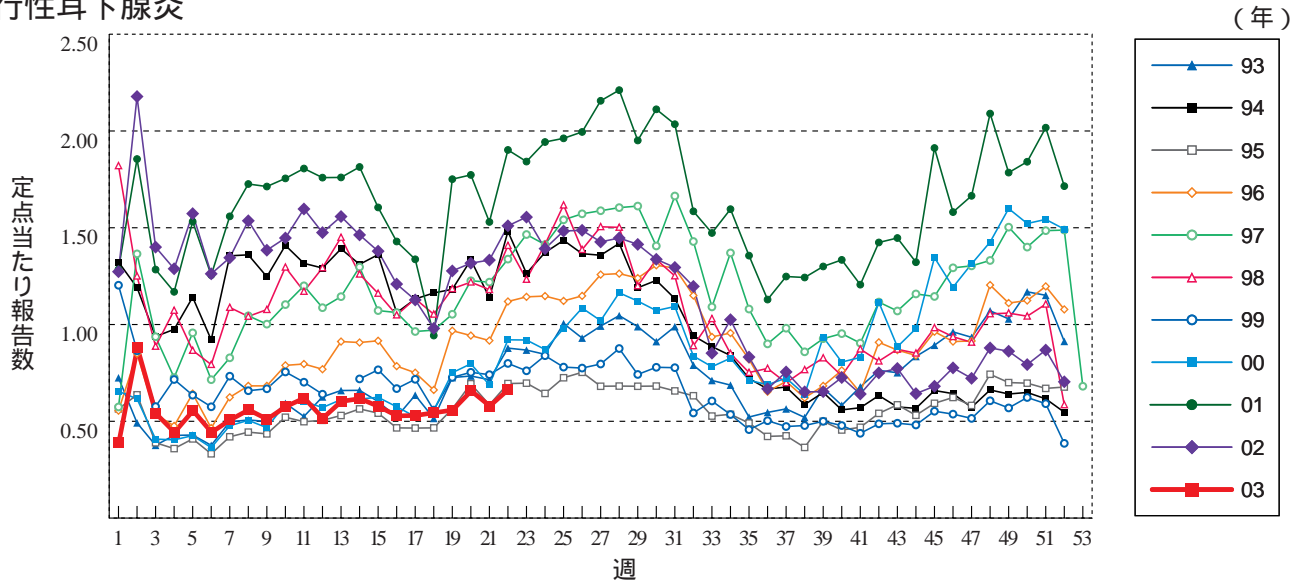
ヘルパンギーナ



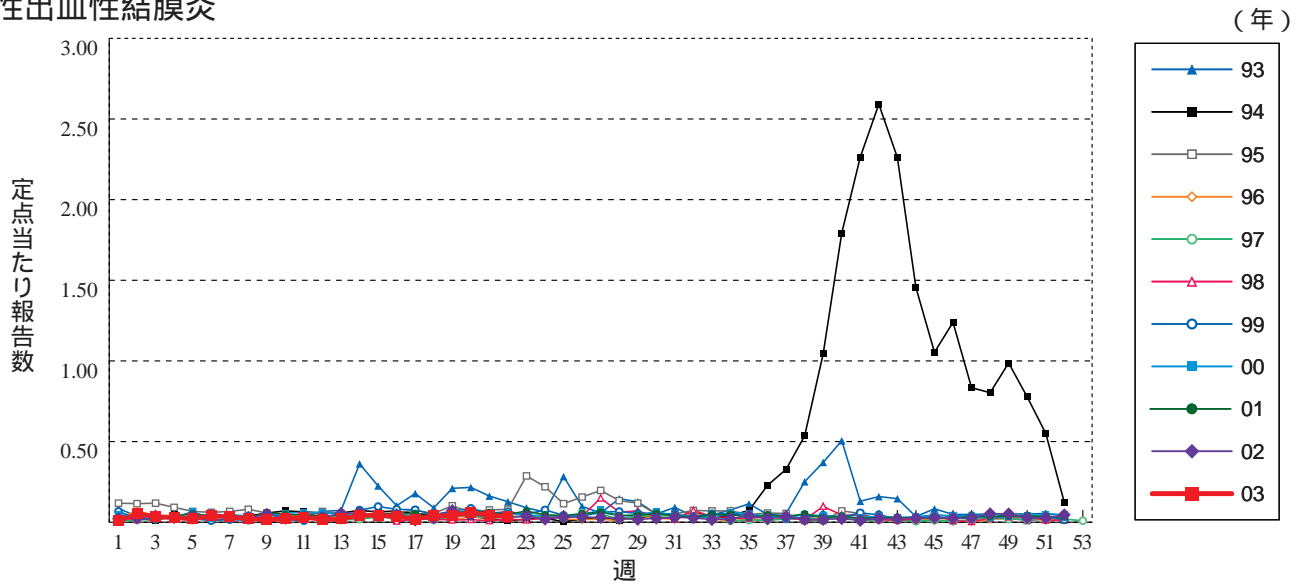
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



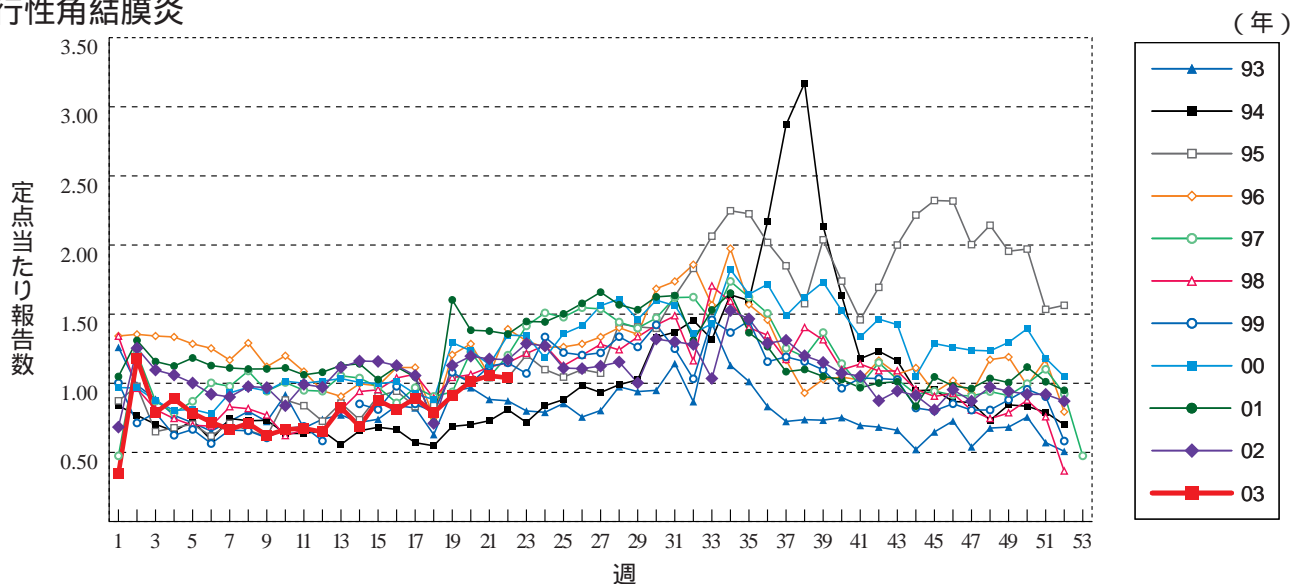
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

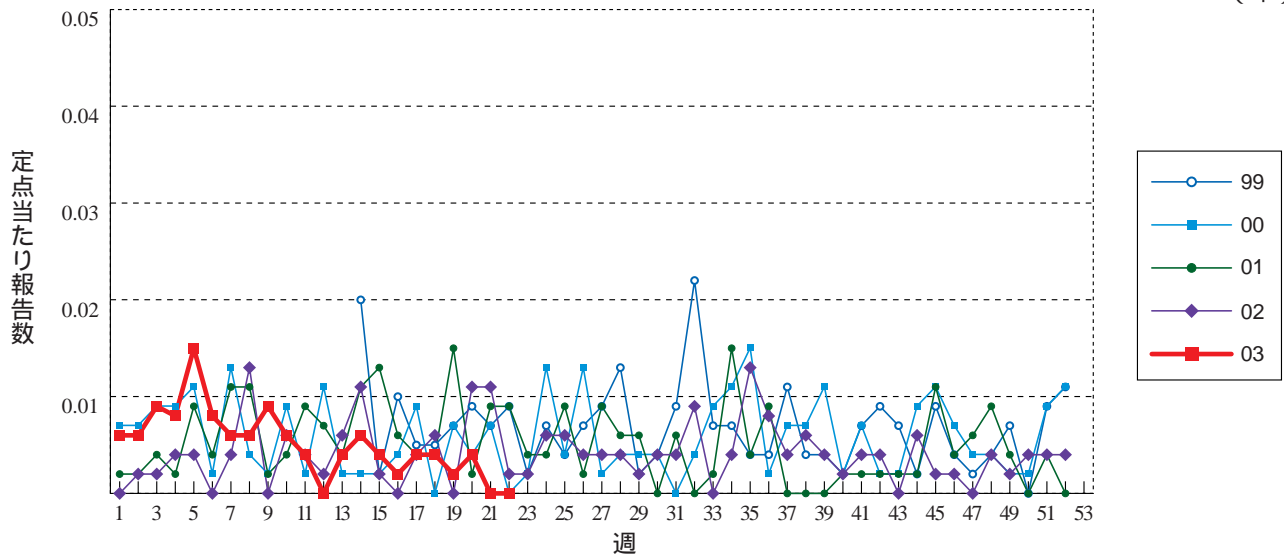


流行性角結膜炎



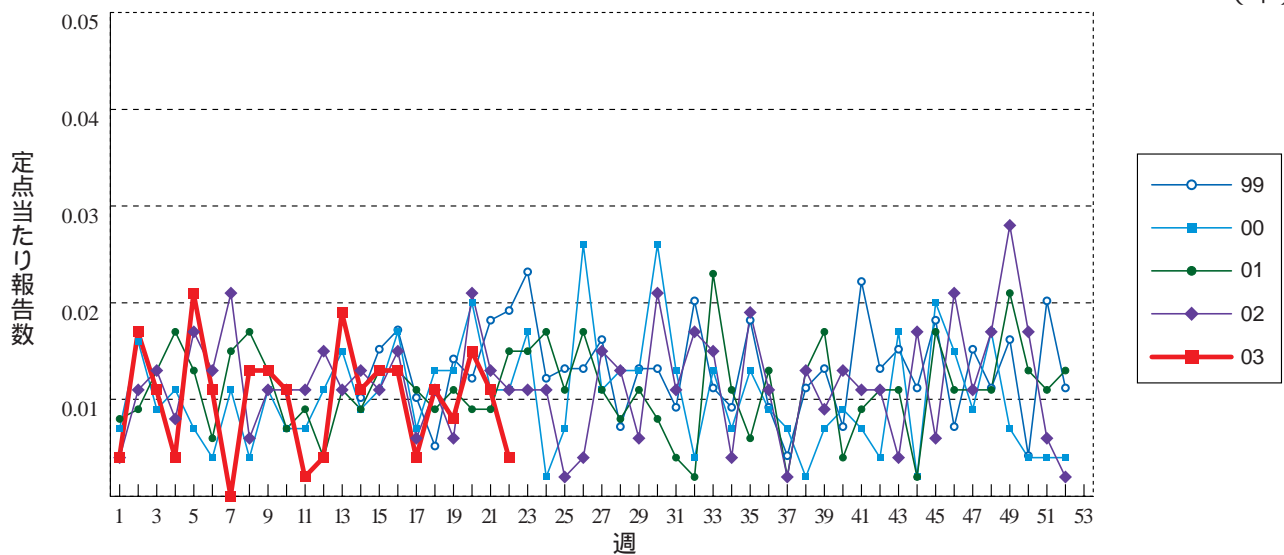
急性脳炎 (日本脳炎を除く)

(年)



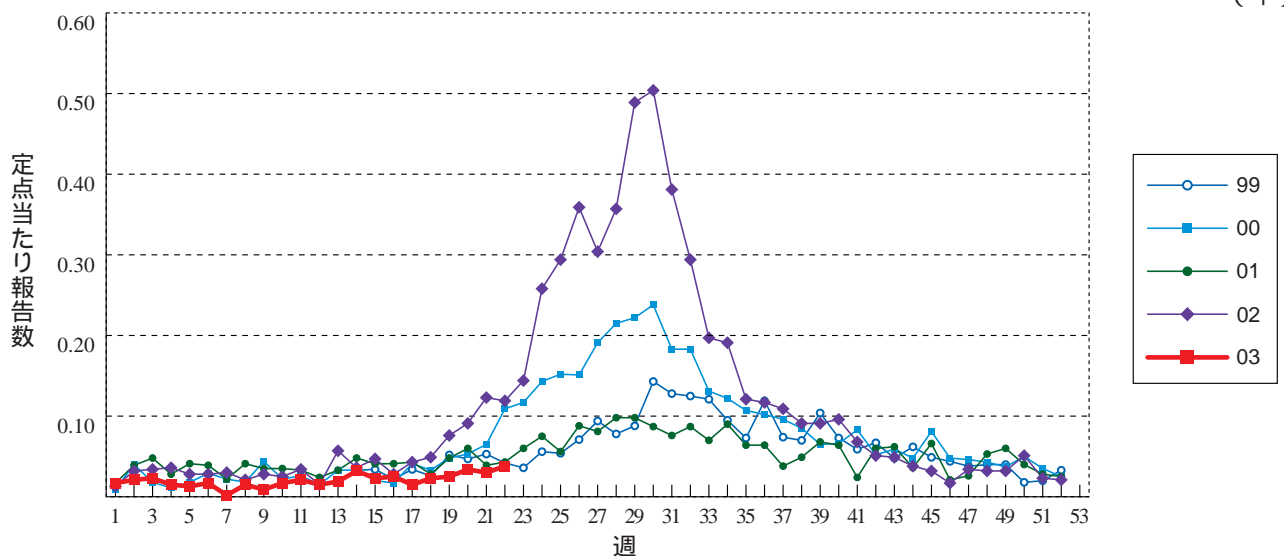
細菌性髄膜炎

(年)



無菌性髄膜炎

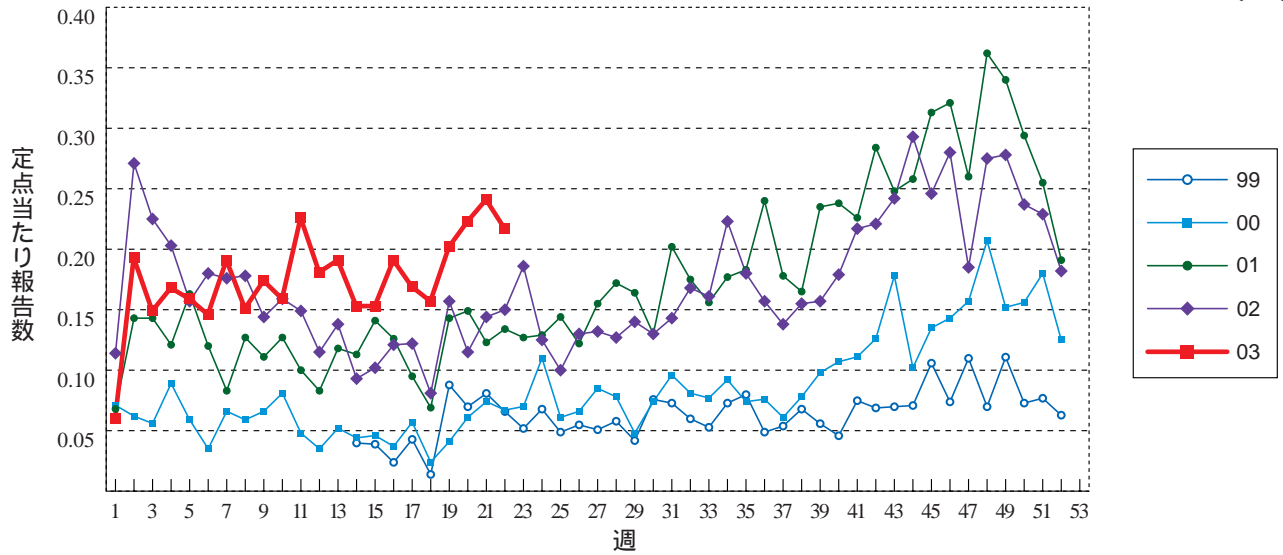
(年)





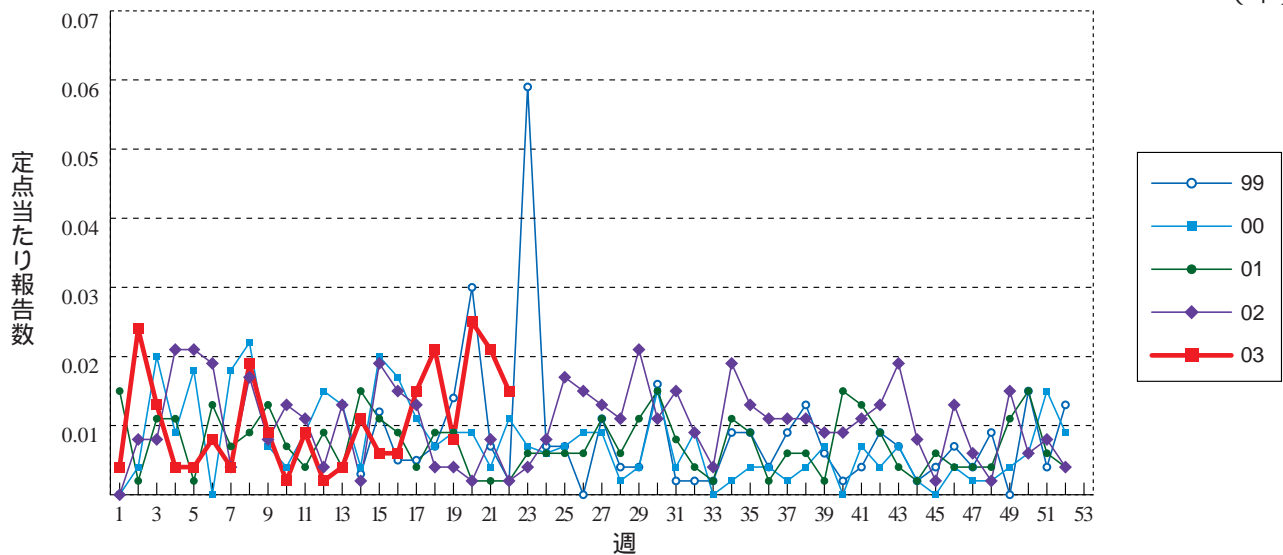
マイコプラズマ肺炎

(年)



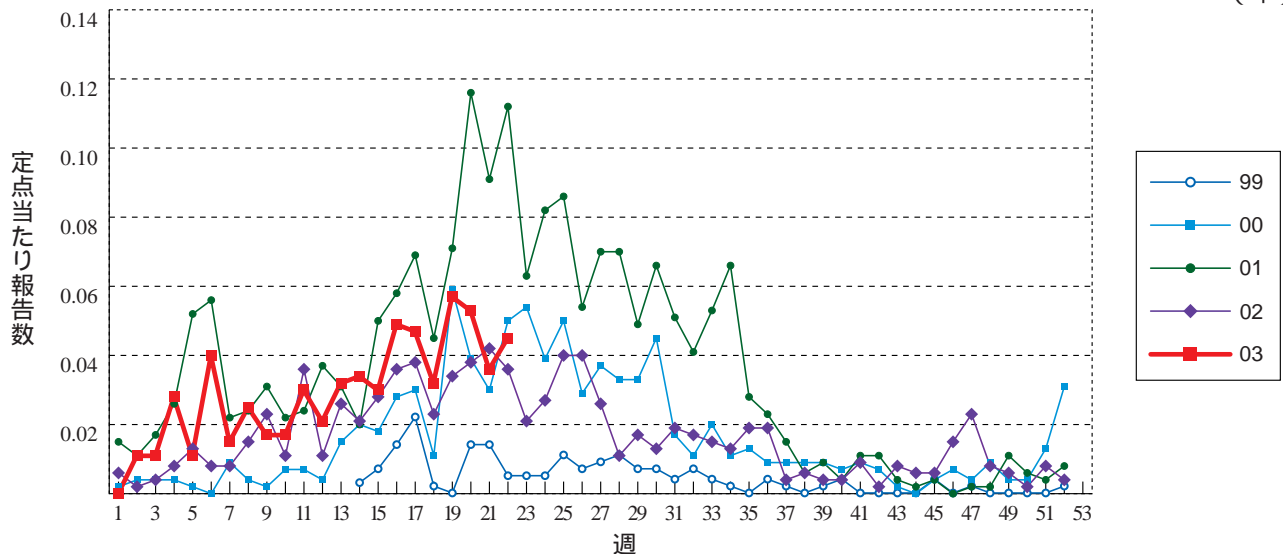
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





## 22週のデータ

注)表中の報告数は6月5日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成15年22週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		パラチフス		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	5	188	1	28	1	14		
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1		
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-		
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-		
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-		
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-		
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-		
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-		
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-		
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	8	-	1	-	-		
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	39	1	10	-	2		
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	16	-	-	-	3		
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	1	-	-		
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2		
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-		
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	1	1	1		
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-		
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-		
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	12	-	1	-	1		
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-		
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-		
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-		
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	3	-	1		
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	2		
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	3	-	1	-	-		
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-		
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-		
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	2	-	1		
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-		
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-		
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成15年22週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	54	335	5	201	-	10	-	-	-	20	-	-	4	397
北海道	-	-	-	-	-	13	-	2	-	9	-	-	-	-	-	-	-	8
青森県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岩手県	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	8
宮城県	-	-	-	-	2	3	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
秋田県	-	-	-	-	-	10	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
山形県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
福島県	-	-	-	-	3	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
茨城県	-	-	-	-	1	5	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	2	-	-	-	5
群馬県	-	-	-	-	2	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
埼玉県	-	-	-	-	1	6	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
千葉県	-	-	-	-	3	17	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
東京都	-	-	-	-	15	32	2	47	-	-	-	-	-	-	-	-	-	41
神奈川県	-	-	-	-	1	4	-	23	-	-	-	-	-	2	-	-	-	17
新潟県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
富山県	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
石川県	-	-	-	-	1	19	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
福井県	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
長野県	-	-	-	-	2	9	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
岐阜県	-	-	-	-	-	14	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
静岡県	-	-	-	-	1	10	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
愛知県	-	-	-	-	1	15	-	19	-	1	-	-	-	1	-	-	-	13
三重県	-	-	-	-	1	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
京都府	-	-	-	-	1	12	2	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
大阪府	-	-	-	-	2	16	-	30	-	-	-	-	-	4	-	-	2	39
兵庫県	-	-	-	-	-	20	1	4	-	-	-	-	-	4	-	-	2	21
奈良県	-	-	-	-	-	5	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
和歌山県	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	5
鳥取県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
岡山県	-	-	-	-	2	14	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
広島県	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	18
山口県	-	-	-	-	-	9	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-	11
徳島県	-	-	-	-	3	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
香川県	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
愛媛県	-	-	-	-	-	4	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21
高知県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
福岡県	-	-	-	-	2	11	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	42
佐賀県	-	-	-	-	2	11	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
長崎県	-	-	-	-	1	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
熊本県	-	-	-	-	4	8	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
宮崎県	-	-	-	-	1	10	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	7
鹿児島県	-	-	-	-	1	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
沖縄県	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成15年22週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	3	-	-	-	1	2	48	1	30	11	348	-	1	4	34	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	2	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	13	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	6	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	1	3	-	1	-	9	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	17	-	-	-	1	-	-
東京都	-	1	-	-	-	-	-	4	-	2	2	129	-	-	1	16	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	29	-	-	1	7	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	6	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	20	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	7	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	2	-	3	1	7	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	1	1	3	-	1	2	35	-	-	1	5	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	2	1	2	-	11	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	4	-	-	-	1	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	2	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	5	-	-	1	1	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	1	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成15年22週

	髄膜炎菌性 髄膜炎		先天性風疹 症候群		炭 疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児 ボツリヌス症		梅 毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	1	11	-	1	-	-	12	91	-	13	-	4	-	-	-	-	3	190
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
秋田県	-	-	-	-	-	-	5	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山形県	-	-	-	-	-	-	2	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福島県	-	-	-	-	-	-	1	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	7
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	6
東京都	1	3	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	32
神奈川県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4
新潟県	-	-	-	-	-	-	1	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	1	6
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
三重県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
京都府	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	12
大阪府	-	2	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	22
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
広島県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	5
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	12
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
大分県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
宮崎県	-	1	-	-	-	-	-	5	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	2	-	-	-	-	-	6
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成15年22週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	1	26	6	32	-	-	-	-	-	-	-	-	33	1	1	1	48	
北海道	-	1	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	1	-	-	
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
茨城県	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	
群馬県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
埼玉県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
千葉県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
東京都	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	12	-	-	-	7	
神奈川県	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	3	
新潟県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	
富山県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
石川県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
山梨県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
長野県	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	
愛知県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
滋賀県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
京都府	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	5	
兵庫県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鳥取県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岡山県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	
広島県	-	-	5	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
山口県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
愛媛県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
熊本県	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
鹿児島県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	



第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成15年22週

	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	
	報告数	累積
総 数	-	-
北海道	-	-
青森県	-	-
岩手県	-	-
宮城県	-	-
秋田県	-	-
山形県	-	-
福島県	-	-
茨城県	-	-
栃木県	-	-
群馬県	-	-
埼玉県	-	-
千葉県	-	-
東京都	-	-
神奈川県	-	-
新潟県	-	-
富山県	-	-
石川県	-	-
福井県	-	-
山梨県	-	-
長野県	-	-
岐阜県	-	-
静岡県	-	-
愛知県	-	-
三重県	-	-
滋賀県	-	-
京都府	-	-
大阪府	-	-
兵庫県	-	-
奈良県	-	-
和歌山県	-	-
鳥取県	-	-
島根県	-	-
岡山県	-	-
広島県	-	-
山口県	-	-
徳島県	-	-
香川県	-	-
愛媛県	-	-
高知県	-	-
福岡県	-	-
佐賀県	-	-
長崎県	-	-
熊本県	-	-
大分県	-	-
宮崎県	-	-
鹿児島県	-	-
沖縄県	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成15年22週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水 痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百 日 咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	87	0.02	926	0.30	4813	1.58	13763	4.52	6749	2.22	2879	0.95	1028	0.34	2462	0.81	48	0.02
北海道	22	0.10	27	0.19	277	1.91	359	2.48	371	2.56	20	0.14	147	1.01	88	0.61	2	0.01
青森県	6	0.09	1	0.02	55	1.31	122	2.90	94	2.24	63	1.50	1	0.02	28	0.67	1	0.02
岩手県	-	-	-	-	42	1.11	79	2.08	76	2.00	9	0.24	11	0.29	18	0.47	-	-
宮城県	-	-	11	0.19	115	1.95	384	6.51	106	1.80	43	0.73	29	0.49	52	0.88	-	-
秋田県	-	-	6	0.17	65	1.86	122	3.49	38	1.09	3	0.09	2	0.06	24	0.69	-	-
山形県	1	0.02	3	0.10	102	3.40	238	7.93	82	2.73	67	2.23	7	0.23	31	1.03	-	-
福島県	-	-	-	-	65	1.35	312	6.50	65	1.35	22	0.46	15	0.31	47	0.98	2	0.04
茨城県	1	0.01	15	0.20	93	1.26	218	2.95	149	2.01	42	0.57	17	0.23	45	0.61	1	0.01
栃木県	-	-	1	0.02	90	1.96	170	3.70	87	1.89	26	0.57	5	0.11	39	0.85	22	0.48
群馬県	-	-	26	0.43	104	1.70	207	3.39	95	1.56	77	1.26	54	0.89	35	0.57	-	-
埼玉県	13	0.05	53	0.33	418	2.60	1109	6.89	323	2.01	115	0.71	67	0.42	142	0.88	-	-
千葉県	-	-	53	0.41	323	2.48	621	4.78	323	2.48	35	0.27	47	0.36	107	0.82	2	0.02
東京都	1	0.01	36	0.25	134	0.94	575	4.05	177	1.25	117	0.82	43	0.30	79	0.56	-	-
神奈川県	3	0.01	49	0.24	403	1.95	865	4.18	377	1.82	43	0.21	63	0.30	208	1.00	1	0.00
新潟県	1	0.01	9	0.15	112	1.87	398	6.63	267	4.45	10	0.17	37	0.62	41	0.68	-	-
富山県	-	-	21	0.72	132	4.55	220	7.59	80	2.76	24	0.83	9	0.31	13	0.45	-	-
石川県	-	-	18	0.62	53	1.83	139	4.79	76	2.62	7	0.24	4	0.14	25	0.86	-	-
福井県	-	-	24	1.09	31	1.41	145	6.59	56	2.55	12	0.55	9	0.41	21	0.95	-	-
山梨県	2	0.05	-	-	34	1.36	78	3.12	25	1.00	1	0.04	8	0.32	14	0.56	-	-
長野県	-	-	-	-	133	2.42	349	6.35	204	3.71	17	0.31	42	0.76	51	0.93	1	0.02
岐阜県	1	0.01	33	0.62	59	1.11	122	2.30	106	2.00	74	1.40	19	0.36	46	0.87	-	-
静岡県	-	-	29	0.34	120	1.40	404	4.70	196	2.28	53	0.62	67	0.78	77	0.90	1	0.01
愛知県	-	-	32	0.18	334	1.89	590	3.33	448	2.53	294	1.66	57	0.32	133	0.75	2	0.01
三重県	-	-	23	0.51	85	1.89	313	6.96	80	1.78	57	1.27	34	0.76	47	1.04	-	-
滋賀県	-	-	15	0.47	37	1.16	99	3.09	68	2.13	15	0.47	3	0.09	24	0.75	-	-
京都府	2	0.02	6	0.08	55	0.72	493	6.49	107	1.41	48	0.63	5	0.07	33	0.43	1	0.01
大阪府	1	0.00	58	0.30	183	0.94	787	4.04	315	1.62	282	1.45	41	0.21	141	0.72	3	0.02
兵庫県	5	0.03	36	0.28	133	1.04	639	4.99	388	3.03	58	0.45	26	0.20	95	0.74	-	-
奈良県	-	-	6	0.17	33	0.94	157	4.49	61	1.74	9	0.26	7	0.20	24	0.69	1	0.03
和歌山県	-	-	9	0.29	24	0.77	141	4.55	48	1.55	9	0.29	13	0.42	25	0.81	-	-
鳥取県	-	-	6	0.32	50	2.63	155	8.16	51	2.68	9	0.47	12	0.63	14	0.74	-	-
島根県	-	-	-	-	10	0.43	77	3.35	54	2.35	20	0.87	1	0.04	13	0.57	-	-
岡山県	-	-	2	0.04	47	0.87	220	4.07	109	2.02	24	0.44	2	0.04	41	0.76	-	-
広島県	-	-	30	0.40	90	1.20	297	3.96	218	2.91	230	3.07	31	0.41	71	0.95	-	-
山口県	-	-	12	0.24	96	1.96	292	5.96	104	2.12	220	4.49	10	0.20	38	0.78	-	-
徳島県	-	-	6	0.26	40	1.74	107	4.65	54	2.35	7	0.30	7	0.30	13	0.57	3	0.13
香川県	1	0.02	15	0.47	17	0.53	164	5.13	55	1.72	22	0.69	1	0.03	18	0.56	-	-
愛媛県	-	-	13	0.33	56	1.44	275	7.05	102	2.62	47	1.21	6	0.15	34	0.87	-	-
高知県	-	-	4	0.13	55	1.77	46	1.48	56	1.81	10	0.32	8	0.26	22	0.71	-	-
福岡県	-	-	107	0.89	180	1.50	583	4.86	404	3.37	320	2.67	13	0.11	152	1.27	1	0.01
佐賀県	-	-	1	0.04	57	2.48	79	3.43	69	3.00	50	2.17	1	0.04	26	1.13	-	-
長崎県	1	0.01	5	0.11	16	0.36	109	2.48	46	1.05	40	0.91	3	0.07	31	0.70	1	0.02
熊本県	2	0.02	11	0.22	65	1.33	193	3.94	133	2.71	18	0.37	3	0.06	76	1.55	1	0.02
大分県	3	0.05	83	2.31	43	1.19	199	5.53	88	2.44	38	1.06	3	0.08	48	1.33	-	-
宮崎県	-	-	6	0.17	92	2.56	249	6.92	127	3.53	137	3.81	13	0.36	56	1.56	-	-
鹿児島県	8	0.08	24	0.41	49	0.83	237	4.02	117	1.98	22	0.37	5	0.08	43	0.73	-	-
沖縄県	13	0.22	1	0.03	6	0.18	26	0.76	74	2.18	13	0.38	20	0.59	13	0.38	2	0.06

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成15年22週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	118	0.04	2199	0.72	310	0.10	2021	0.66	21	0.03	660	1.04	-	-	2	0.00	18	0.04
北海道	21	0.14	5	0.03	8	0.06	126	0.87	-	-	21	0.72	-	-	-	-	-	-
青森県	2	0.05	8	0.19	2	0.05	23	0.55	-	-	6	0.55	-	-	-	-	1	0.17
岩手県	-	-	13	0.34	7	0.18	49	1.29	-	-	5	0.42	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	28	0.47	18	0.31	75	1.27	2	0.18	3	0.27	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	40	1.14	-	-	27	0.77	1	0.14	2	0.29	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	2	0.07	-	-	17	0.57	1	0.13	9	1.13	-	-	-	-	-	-
福島県	2	0.04	99	2.06	40	0.83	46	0.96	1	0.08	12	1.00	-	-	-	-	-	-
茨城県	2	0.03	13	0.18	6	0.08	40	0.54	-	-	50	3.13	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	6	0.13	22	0.48	34	0.74	-	-	23	1.92	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	81	1.33	3	0.05	80	1.31	2	0.14	14	1.00	-	-	-	-	-	-
埼玉県	4	0.02	20	0.12	28	0.17	95	0.59	-	-	22	0.59	-	-	-	-	-	-
千葉県	1	0.01	39	0.30	9	0.07	58	0.45	-	-	42	1.24	-	-	-	-	-	-
東京都	1	0.01	43	0.30	11	0.08	29	0.20	-	-	22	1.57	-	-	-	-	-	-
神奈川県	15	0.07	35	0.17	35	0.17	90	0.43	1	0.02	49	1.17	-	-	-	-	-	-
新潟県	2	0.03	12	0.20	3	0.05	46	0.77	-	-	2	0.22	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	9	0.31	1	0.03	3	0.10	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	13	0.45	-	-	12	0.41	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	61	2.77	-	-	6	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.33
山梨県	-	-	1	0.04	3	0.12	4	0.16	-	-	3	1.00	-	-	-	-	-	-
長野県	1	0.02	9	0.16	1	0.02	16	0.29	-	-	11	1.00	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	14	0.26	-	-	24	0.45	-	-	8	0.67	-	-	-	-	-	-
静岡県	2	0.02	49	0.57	1	0.01	92	1.07	-	-	11	0.55	-	-	-	-	1	0.10
愛知県	1	0.01	184	1.04	14	0.08	135	0.76	-	-	31	0.91	-	-	-	-	1	0.08
三重県	1	0.02	71	1.58	1	0.02	28	0.62	1	0.08	2	0.17	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	32	1.00	-	-	9	0.28	-	-	3	0.43	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	28	0.37	5	0.07	40	0.53	-	-	12	0.67	-	-	-	-	-	-
大阪府	3	0.02	361	1.85	20	0.10	72	0.37	1	0.02	41	0.84	-	-	-	-	2	0.13
兵庫県	7	0.05	140	1.09	5	0.04	206	1.61	-	-	43	1.23	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	51	1.46	1	0.03	27	0.77	-	-	8	0.89	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	25	0.81	4	0.13	9	0.29	-	-	2	0.50	-	-	-	-	6	0.55
鳥取県	-	-	59	3.11	1	0.05	19	1.00	2	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	18	0.78	-	-	6	0.26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	32	0.59	23	0.43	5	0.09	39	0.72	-	-	18	1.50	-	-	-	-	-	-
広島県	1	0.01	25	0.33	-	-	46	0.61	1	0.05	36	1.80	-	-	-	-	1	0.05
山口県	9	0.18	143	2.92	4	0.08	53	1.08	-	-	10	1.11	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	7	0.30	-	-	7	0.30	-	-	6	1.50	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	6	0.19	-	-	8	0.25	-	-	11	3.67	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	10	0.26	1	0.03	14	0.36	1	0.14	18	2.57	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	45	1.45	-	-	47	1.52	-	-	8	2.67	-	-	1	0.13	-	-
福岡県	2	0.02	134	1.12	12	0.10	72	0.60	1	0.04	28	1.08	-	-	1	0.07	1	0.07
佐賀県	1	0.04	18	0.78	-	-	10	0.43	-	-	1	0.25	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	5	0.11	1	0.02	34	0.77	3	0.38	21	2.63	-	-	-	-	-	-
熊本県	2	0.04	89	1.82	2	0.04	9	0.18	2	0.22	16	1.78	-	-	-	-	1	0.07
大分県	-	-	48	1.33	4	0.11	17	0.47	-	-	2	0.40	-	-	-	-	-	-
宮崎県	2	0.06	57	1.58	7	0.19	22	0.61	1	0.25	9	2.25	-	-	-	-	1	0.14
鹿児島県	-	-	17	0.29	24	0.41	89	1.51	-	-	11	1.83	-	-	-	-	1	0.08
沖縄県	4	0.12	3	0.09	1	0.03	11	0.32	-	-	6	0.60	-	-	-	-	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成15年22週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	102	0.22	7	0.01	21	0.04
北海道	1	0.04	-	-	-	-
青森県	8	1.33	-	-	-	-
岩手県	13	0.65	-	-	-	-
宮城県	9	0.75	1	0.08	-	-
秋田県	1	0.14	-	-	-	-
山形県	1	0.10	-	-	-	-
福島県	1	0.14	-	-	3	0.43
茨城県	3	0.30	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-
群馬県	1	0.10	-	-	-	-
埼玉県	-	-	1	0.11	1	0.11
千葉県	1	0.08	2	0.15	-	-
東京都	2	0.08	-	-	2	0.08
神奈川県	-	-	-	-	10	0.83
新潟県	4	0.33	-	-	1	0.08
富山県	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	1	0.20
福井県	3	0.50	-	-	-	-
山梨県	2	0.20	2	0.20	-	-
長野県	1	0.09	-	-	1	0.09
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	1	0.10	-	-	-	-
愛知県	7	0.54	-	-	-	-
三重県	4	0.44	-	-	1	0.11
滋賀県	-	-	-	-	-	-
京都府	4	0.80	-	-	-	-
大阪府	10	0.67	1	0.07	-	-
兵庫県	1	0.08	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-
和歌山県	3	0.27	-	-	-	-
鳥取県	1	0.20	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-
岡山県	5	1.00	-	-	-	-
広島県	5	0.24	-	-	-	-
山口県	3	0.33	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-
高知県	3	0.38	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	1	0.07
佐賀県	1	0.17	-	-	-	-
長崎県	2	0.18	-	-	-	-
熊本県	1	0.07	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-

感染症週報 第5巻、第22号 平成15年6月13日発行  
発行：国立感染症研究所

厚生労働省健康局結核感染症課  
厚生労働省大臣官房統計情報部

事務局：国立感染症研究所感染症情報センター  
〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1  
TEL：03-5285-1111  
FAX：03-5285-1129

URL：http://idsc.nih.go.jp/index-j.html  
<国立感染症研究所 感染症情報センター>  
http://www.mhlw.go.jp/  
<厚生労働省>  
http://www.forth.go.jp/  
<旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所)>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。